

日本ビジネス中国語学会

会報 (2006 年度)

第 17 号



目 次

日本ビジネス中国語学会会報第 17 号

第 17 回総会報告 (2007 年 7 月 14 日)	2
第 21 回公開講演会・シンポジウム (2006 年 10 月 15 日 東京・日本青年館)	
通訳者として、総合能力をつけ、社会での活躍を目指すためには 塚本 慶一	7
日⇄中通訳のポイント (私の体験から) 武吉 次朗	13
第一回研究会 (2006 年 11 月 18 日 大阪・日中語学センター)	
ニュース等に使われるカタカナ語 (外来語) の中国語訳を考える 待場 裕子	21
ビジネス中国語と私 榎原 茂樹	27
第二回研究会 (2007 年 1 月 20 日 大阪・日中語学センター)	
中国の知的財産権についてー中国語翻訳の事例を交えて 北原 恵	31
「中日日中貿易用語辞典」の編集に参加して 戸毛 敏美	35
第三回研究会 (2007 年 3 月 24 日 大阪・日中語学センター)	
よく見かける誤訳の例から見る翻訳・通訳に際しての心構え 周 喆	39
法律文書の翻訳 田中 奈緒子	44
第 22 回公開講演会・シンポジウム (2007 年 7 月 14 日 大阪・日中語学センター)	
中国語通訳、プロへの道～トレーニング法と検定対策 古川 典代	48
ビデオ鑑賞と解説 (温家宝総理の日本国会における講演) 藤本 恒	52
サーチナ HP 連載 (2006 年 9 月～2007 年 7 月)	62
設立趣意書	82
日本ビジネス中国語学会会則	83
役員名簿	86
入会のご案内	87

第17回総会を開催

総会後第22回公開講演会・シンポジウムを開催

日時：平成19年7月14日 午後2時～2時40分 於：大阪中国語学院

議事録（要旨）

議長選出：会則に基づき藤本恒会長が務める

報告：

2006年度事業報告（榎原理事長） 後述事業報告参照・・・承認

2006年度収支報告（岩下事務局長）・・・・・・・承認

監査報告（待場会計監事）・・・・・・・承認

2007年度方針：

事業計画（榎原理事長） 後述事業計画参照・・・承認

収支予算（岩下事務局長）・・・・・・・承認

新理事に古川裕氏（大阪外国語大学教授）就任・・・・・・・承認

第22回公開講演会・シンポジウム

日時：平成19年7月14日 午後3時～5時 於：大阪中国語学院

講演：「中国語通訳、プロへの道～トレーニング法と検定対策」

講師：古川典代（神戸松蔭女子学院大学文学部 中国語講師、
日本ビジネス中国語学会 会員）

ビデオ鑑賞と解説：「中国国務院温家宝総理の日本国国会における講演」

講師：藤本 恒（日本ビジネス中国語学会 会長）

講演会終了後、同学院にて懇親会を開催、経験談などを含め意義ある交流が行なわれた。

2006年度事業報告

2006年4月1日～2007年3月31日

1. 第15回ビジネス中国語検定試験実施

2006年度より、これまでのアンケート結果を踏まえ、2・3級、3・4級の併願受験も行なった。

大阪会場：

2006年12月10日（日） 会場：北浜 エル・おおさか南館

受験者数 2級 21人（内学生21） 合格者数 11人（同11）

3級 86人（内学生85） 合格者数 74人（同73）

4級 7人（内学生6） 合格者数 6人（同5）

（上記中、2・3級併願受験者は11人、3・4級併願受験者は7人）

受験者数は昨年度より合計で26名増え、級別では2級1名、3級21名、4級4名、それぞれ増えた。

東京会場：

大阪会場とは別に獨協大学の協力を得て、同日、同時刻に第2回目の検定試験を実施した。

受験者数 2級 9人（内学生6人） 合格者数 7人（同6）

3級 24人（内学生16人） 合格者数 21人（同13）

4級 17人（内学生12人） 合格者数 17人（同12）

（上記中、2・3級併願受験者は4人、3・4級併願は14人）

東京での受験者数は昨年度の27人より50人に増え、級別では2級が9人、3級が9人、4級が5人、それぞれ増えた。

2. 中国語検定協会への協力

中国語検定協会よりの協力要請を受けて、同協会が実施するスコア式ビジネス中国語試験の出題に協力。全5問（一問10題合計50題）中の3問（合計30題）の出題を担当し、2006年6月、2007年3月の二回実施した。

3. 公開講演会・シンポジウム（講師の所属役職は実施当時）

第20回公開講演会・シンポジウム（大阪） 2006年6月17日（土）

① 新書案内 「ビジネス中国語トレーニング会話と文書」

講師 待場裕子理事（流通科学大学名誉教授）

② 「私の通訳体験」

中国系金融機関での体験、大手日系企業で中国関係の案件を担当して
講師 武川昌子会員 (京セラ株式会社 秘書室中国課)

第21回公開講演会・シンポジウム(東京) 2006年10月15日(日)

① 「通訳者として、総合能力を付け、社会での活躍を目指すためには」

講師 塚本慶一理事(神田外語大学教授、サイマル・アカデミー主任
講師)

② 「通訳とビジネス・コミュニケーション能力テスト(BCT)」

講師 向井鎌治郎会員 (日本通訳協会代表、桜美林大学招聘教授)

③ 「日⇄中翻訳のポイント(私の体験から)」

講師 武吉次朗理事 (日本国際貿易促進協会相談役、元摂南大学教授、社会人対象翻訳講座主宰)

4. 研究会 (講師の所属役職は実施当時)

2006年度(総会以降)

第一回研究会 2006年11月18日(土) 大阪中国語学院

① 「ニュース等に使われるカタカナ語(外来語)の中国語訳を考える」

講師 待場裕子理事

② ビデオ鑑賞「北京電視台 身辺的故事2話 (还钱、找乐)」

講師 藤本恒会長

③ 「ビジネス中国語と私」 ビジネスに役立つ中国語学習方法、中国取引から忘れえぬ一コマ(塞翁失馬、実盤报价)

講師 榎原茂樹理事長

第二回研究会 2007年1月20日(土) 大阪中国語学院

① 「中国の知的財産権について」ー中国語翻訳の事例を交えてー

講師 北原恵会員

② ビデオ鑑賞「中央電視台の焦点訪談」ー多国籍企業の贈賄問題ー

講師 藤本恒会長

③ 「中日日中貿易用語辞典」の編集に参加して

講師 戸毛敏美理事

第三回研究会 2007年3月24日(土) 大阪中国語学院

① 「よく見かける誤訳の例から見る翻訳・通訳に際しての心構え」

講師 周 喆 会員

② ビデオ鑑賞 「中央電視台の焦点訪談」ー黒心包工頭的遭遇ー

講師 藤本恒会長

③ 「法律文書の翻訳」

－契約書や法令条文の日文中訳、中文日訳での留意点－

講師 田中奈緒子会員

5. ビジネス中国語普及活動他

①

原口有会員（ジェイス株式会社）より電源開発（株）の中国要員向けビジネス中国語検定試験出題、採点、検定の協力依頼があり実施した。受験レベルは学会検定の4級ということから、待場、上林両理事及び藤本会長、榎原理事長が担当した。4月上旬に実施し、電源開発の社員13名が受験した。

②

中国情報専門データサイトを運営し中国に特化したシンクタンクである（株）サーチナのHPコラムにビジネス中国語に関するエッセイ等を毎月連載（藤本、待場、戸毛、榎原で輪番担当）。



2007年度 事業計画

2007年4月1日～2008年3月31日

1. 第22回公開講演会・シンポジウム 7月14日(土) 総会終了後
 - ① 講演 「中国語通訳、プロへの道～トレーニング法と検定対策」
講師：古川典代 (神戸松蔭女子学院大学 文学部 中国語講師、日本ビジネス中国語学会会員)
 - ② ビデオ鑑賞と解説 「中国国務院温家宝総理の日本国国会における講演」
講師：藤本 恒 (日本ビジネス中国語学会 会長)
2. 第17号 会報発行 8月末
3. 第16回ビジネス中国語検定試験 12月2日(日)に実施
検定級：1、2、3、4級及び2・3級、3・4級併願の6種
本年度は従来の大阪、東京会場に加え、九州での開催を予定
大阪会場：エル・おおさか
東京会場：LECリーガルマインド大学千代田キャンパス水道橋本校
九州会場：北九州市立大学
※ 本年度より1級検定試験を実施。1級は筆記試験(一次試験)及びオーラル試験(二次試験)を行なう。(但し、大阪会場のみ)
4. 公開講演会・シンポジウム及び研究会の開催
第23回公開講演会・シンポジウムを秋に北九州市で開催予定
研究会は大阪中国語学院で2～3ヶ月に一回程度の開催を予定
5. 学会ホームページの充実 随時
6. 会員拡大と理事の増強
新任理事 古川 裕会員(大阪外国語大学 教授)
7. ビジネス中国語普及に関する活動 随時
8. 日本中国語検定協会への協力事業であるスコア式ビジネス中国語検定の出題協力を継続する。

第21回 公開講演会・シンポジウム〔東京会場〕

2006年10月15日

日本青年館 501 会議室

総合力をつけ、社会での活躍を目指すため

塚本 慶一

●「各有千秋」の各種試験

現在、中国語に対する社会のニーズが高まるにつれ、中国語の各種検定試験も増えてきました。中国語検定試験、TECC（中国語コミュニケーション能力検定）、HSK（漢語水平考試）、ビジネス中国語検定試験、中国語通訳案内士試験のほかに、日本語能力検定などの試験については、それぞれに特徴がはっきりしており、問題も工夫され、受験対象やレベル、程度、目的意識等もしぼられて、まさに「各有千秋」、つまりそれぞれに長所を持つ試験となっています。それに加え、英語のようにコミュニケーション能力やビジネス能力が注目されてきた背景のもと、中日通検・ビジネスコミュニケーション試験や、HSK（商務）、ビジネス日本語検定など新しい試験が誕生しています。

●語学の楽しみを共有しよう

なぜ、ここに来て、コミュニケーション能力を測ることが注目されているのでしょうか。それは日本だけでなく、中国にもグローバル化の波が押し寄せていることに関係もありそうです。今までは、日中間だけのコミュニケーションだけで事足りていたところが、欧米やその他各国をも含めた世界ということを意識したコミュニケーションが必要とってきているからではないでしょうか。今までの日本の中国語学習者は、文法を中心とした基礎学習をコツコツと積み上げて地道に学んでいました。しかし、自身も国際化していく必要がある現在では、「語学力で自己表現」ができなくてはなりませんから、学習者の考え方にも転換が求められているのです。いわば、語学が「自分だけの楽しみ」から、周囲とのコミュニケーションを積極的に行う「楽しみの共有」に変化していく時代になっているのです。

そこで、新しく誕生した中日通検は国際化の時代にビジネスの世界でやっていこうという人向けの資格試験ということになるのでしょうか。この試験は、日英通訳の試験を長年主催している日本通訳協会が問題作成を行っていることから、英語の試験でのこれまでの成果とニーズを反映しているのが特徴です。従って、中日通検は「自分自身の中国語コミュニケーション能力はどのレベル、どの程度までなのか」、「社会でどれほど通用し、役に立つのか」を知るための試験といえます。そしてさらにレベルアップさせていけば、中国語のスペシャリストへの道も開けるといえる試験なのです。

●日本人学習者の弱点克服のために

2005年に第1回目の試験が実施されました。その結果をみてみますと、日本人学習者の

弱点が浮かび上がってきたようです。ヒアリングの問題はやはり苦手なようですが、ここでは「聞き取れない」ことよりも「聞いたことを表現できない」ということが問題です。内容の把握にしても、「聞く」ことよりそれをまとめるという技術の不足を感じました。また、「コミュニケーション」の問題については、互いの文化に対しての理解不足があるようです。もちろん、個人差もありますが、日本人受験者は、聞き取りが弱い反面、読解力があり、丁寧に勉強していることが伺えるのに対して、中国人受験者は、日本語の聴き取り能力や表現能力は高いものの、把握が少し大雑把になりがちであるという違いも見受けられました。

日本人受験者については、今後「中国語で読み、中国語で考え、中国語で表現できる」ように訓練していただきたいと思います。短いセンテンスは大丈夫でも、長いセンテンスになると読み取れない、聞き取れない、言えない、という方については、知識ではなく、訓練が足りないのです。確かに中国語で読み、考え、表現することは難しいと感じられるかもしれません。しかし、その難しさに対して、じっくりと向き合い、理解していく必要があるのです。

●自分が主役

これからは「実力、資格、学位」の三拍子揃った人材が広く求められるようになると思います。実力については、三つの要素および五つの文字でこそレベルアップにつながると思います。

また、資格については、上記の「各有千秋の各種試験」にも述べましたが、資格を重んずる日本の社会での活躍のためにもぜひ取得して欲しいところでもあります。さらに、今後、欧米なみに社会的に認知され、その社会的地位が高くなるようにするために、英語のように通訳や翻訳、ビジネス関連の大学院コースが設置され、通訳者や翻訳者としてやりがいがあって、活躍できることを期待したいところでもあります。そのためにも、自分が主役なんだという気持ちで、モチベーションを高め続けていただきたいと思います。

●今後の展望

今日、日中両国間の交流は、官民を問わず、あらゆる分野、あらゆるレベルに及び、実務レベルの交流や会議は年々活発になっています。加えて、国際社会における中国のプレゼンスの高まりに伴い、日本と中国の二国間関係の枠を超えた国際的な交流や会議も飛躍的な増加が見られます。

さらに、2006年の日中文化スポーツ交流年を皮切りに、2007年の日中国交正常化35周年、2008年の北京オリンピック、2009年の中国建国60周年、そして、2010年に開催予定の上海万博は、中国にとって、また日本、そしてアジア全体にとりましても記念すべきビッグイベントですし、これらのイベントは、日中関係はもとより、中国語通訳・翻訳業界に大きな刺激とポジティブな影響を与えることは想像に難くないことであります。

※ 以下は頂いた原稿そのままを掲載しております

耳をすまそう

塚本慶一・冢本庆一 Zhǒngběn Qìng yī

陈：你好！

こんにちは！

龟山：你好！

こんにちは！

冢本：你好！

こんにちは！

龟山：请坐。

どうぞおかけください。

陈：请坐。

どうぞおかけください。

陈：今天我们请来的嘉宾是神田外语大学教授、日中翻译家冢本庆一先生。

本日のゲストは神田外語大学の教授で、日中通訳者の塚本慶一さんです。

冢本：同学们，你们好！ 我叫冢本庆一，请多关照，非常感谢有这么一个机会来跟各位见面。

皆さん、こんにちは！塚本慶一です。どうぞよろしくお願いします。

皆さんとお目にかかれてうれしく思います。

龟山：中国語通訳という夢を持っている方もいっぱいいらっしゃると思うので、現状を教えてください。

冢本：那我就先从目前的日中两国的交流关系来言，那么已经从已往的点呢渐渐地变为线，而又向面的方向不断地发展。

ではまず現在の日中両国の交流についてお話ししましょう。これまでは点であったものが、次第に線に変わり、そしてまた面の方向へと絶え間なく発展しています。

冢本：那具体地来说，从过去的经贸外交的领域，那么现在已经向投资、金融、流通以及文化，教育，体育，电影，音乐，科学技术等等的方面不断地扩大。

具体的に言いますと、過去の貿易、外交の分野から、現在はすでに投資や金融、流通、および文化言教育、スポーツ、映画、音楽、科学技術などさまざまな分野へと絶えず拡大しています。

我举个例子来讲，在电影方面，已经能在大的剧场亮相，进行所谓特约放映。《英雄 HERO》，那就是其中的一个例子。那为了使广大的观众能够欣赏这些电影，那么就需要为它配上日语的字幕。我们希望呢在电影翻译的方面，能够出现犹如户田奈津子女士，那样优秀的高才和高手。

例をあげますと、映画ではすでに大劇場で公開され、いわゆるロード

ショー上映されています。「英雄 HERO」もそのひとつですね。では広く観客にこのような映画を見てもらうためには、日本語字幕が必要です。私たちは映画の字幕翻訳でたとえば戸田奈津子さんのような優秀な人材が育つことを期待しています。

那么今年的九月呢，要在上海要举行一次世界“F1 赛车”的锦标赛。据说通过这个实况转播啊，要吸引不可胜数的，包括车迷在内的观众。那么再说了，2008 年，北京的奥运会，2010 年的上海的“万国博览会”。

それから今年の 9 月には、上海で F1 グランプリが開催されます。その実況が中継されることでモーターレースファンを含む数え切れないほどの観衆が惹きつけられるだろうと思われます。それから 2008 年に北京オリンピック、2010 年に上海万国博覧会が続きます。

冢本：那么在今后的国际交流的方面，特别是“一衣带水”的日中两国之间，就需要大批的语言方面的人才。那么其中不仅是需要连续传译，也就是所谓的「逐次通訳」，那么而且随着今后的国际会议的中心呢，除了东京以外呢，新的热点就是北京了。

今後の国際交流において、とりわけ「一衣帯水」の日中両国の間では、大勢の語学の人材が必要になります。それはいわゆる「逐次通訳」だけではありません。それから、今後国際会議の中心として、東京以外で新しく注目されるのが北京です。

那么这么一来的话呢，就需要大批的“同声传译”，就是「同時通訳」者。但是遗憾的是，目前在这方面的人才呢几乎是寥寥无几。

そうなると大勢の「同時通訳者」が必要となります。しかしながら残念ながらことに、現在この分野における人材がきわめて少ないのです。

那么换言之呢，通过学习和掌握汉语，争取在将来当上一个翻译，是有奔头儿的，而且是大有可为的。

言い換えれば、学習によって中国語を身につけ、将来通訳者になるため努力することは、希望のある、非常にやりがいのあることなのです。

亀山：ズバリ、先生、学習者のレベルアップにはどうすればいいでしょうか。

冢本：那么龟山小姐您所提的这个问题呢，我个人呢，只能提供一些我的己见作为参考了。那么关键呢我个人认为呢，可以归纳为以下“三个因素”和“五个字”。

亀山さんの質問ですが、これは私個人の意見ですので、あくまで参考にしてください。ポイントとしては、以下の「3つの要素」と「5つの文字」にまとめられると思います。

冢本：那么这个三个因素呢可以指第一呢，是要有志气。俗话说得好，“有志者事竟成”。那么就是说呢，我们希望大家能够树立一个雄心大志来力争上游。

この3、つの要素の1つ目は、意気込みがあること。ことわざに言う「志があれば必ず成功する」です。皆さんに大きな志を抱いて、高い目

標をめざしていただきたいのです。

第二呢是环境了，也就是说需要有一个第一流的学习环境，包括老师、包括教材、包括设施。你比如说，《中国语》这个节目，我就希望同学们能够充分地活学活用。

2番目は環境です。つまり教師言教材，設備も含めて一流の学習環境が必要だということです。たとえばこの「中国語会話」の番組を，皆さんに十分に活用していただきたいのです。

那么第三个是学友了。这里所指的学友呢，是和那些“志同道合”的，力争这个名列前茅的那些学友在一起互相切磋，刻苦钻研来提高他自己。

3番目は学友です。ここでいう学友とは，「志と信念を同じく」する，優秀な成績を収めるために努力し，互いに切磋琢磨し，自分のレベルを高める友のことです。

那么至于五个字，它是指一个是“听”，一个是“念”，一个是“说”，一个是“音”，还有个“翻”，那么所谓这个“听”呢，是通过多听，精听来提高听力。

それから5つの文字とは「聴」，「念」，「説」，「音」それから「翻」を指します。ではこのいわゆる「聴」ですが，より多く，より詳しく聞くことにより聞く力がレベルアップします。

“念”是多念、快念，而且要念得熟能生巧，

「念」は多く読む，早く読む，そして何度も読んでコツをつかむことです。

冢本：“说”呢，就是指以积极的态度，来沟通彼此情谊的这种会话。由此呢，就可以不至于在人们面前怯场，能够擅长在人们面前发言和发表。那么“音”呢，就是指“发音”了。那么要求自然、得体，而且悦耳动听。

「説」は積極的な態度で互いのコミュニケーションを取ることです。そうすれば，特に人前に出ても上がることはなくなり，発言や発表が上手くできるようになります。そして，「音」とはつまり「発音」のことです。自然で適切で，かつ耳に心地よいことが要求されます。

那么通过以上的这些“听”，“念”，“说”和“音”呢，就能使自己的水平达到对方所能接受的那种节奏啊、那种语调啊、声调啊、语气，乃至于一种良好的气氛。

以上の「聴」，「念」，「説」，「音」により，自分のレベルを，リズムや，イントネーション，アクセント語感などが相手に受け入れられる程度にまで引き上げることができ，さらにより雰囲気を作り出すことも可能です。

除此以外还有一个“翻”了。那么“翻”呢，就是要求达到忠实可靠，通顺达意，快速应付的水平。

それ以外にもうひとつ，「翻」があります。「翻（通訳）」は忠実かつ正確で，筋道立っていること，そして迅速な応対などが求められます。

那么这样一来的话，就一定能够发挥语言桥梁的作用。那么能够为社会提供一个良好的语言的服务，那就是说能够当上一名名副其实的翻译了。

そうすれば，必ず言葉の橋渡しの役割を果たせるのです。社会のために優れた言葉のサービスを提供できるということは，いわば名実ともに優

秀な通訳者になれるということです。

陈：冢本老师的一席话，对我们今天学习汉语的观众非常有帮助，非常感谢，最后请您对我们的观众讲几句话，好吗？

冢本先生のお話は、現在中国語を勉強している皆さんにとって非常こ役立つことと思います。ありがとうございました。最後にテレビをご覧の皆さんに一言お願いします。

冢本：我就希望同学们千万不要错过这个难得的时机和可贵的机遇，那么通过学习和掌握汉语呢，在日中两国的交流方面，不仅是官方还是民间，不仅是正式的还是非正式的，职业的、业余的、大场面、小场面等等，而为此发挥各自的作用，哪怕是点点滴滴的也好。

皆さんに、この2度とない大切なチャンスをぜひ大事にさせていただきたいと思います。中国語を身につけ、日中交流の面で。それが政府間のものであれ民間のものであれ、公式であれ非公式であれ、あるいは、プロアマ、規模の大小を問わず、その人なりの役割を果たしていただきたいのです。たとえささいなことであってもかまいません。

终究能为日中两国的交流的日益发展，同时也为达到自己的学习的目标，实现自己的美好的理想而不断地努力，不断地提高。

そして日中関係のさらなる発展のために、また同時に自らの学習の目標を達成させ、すばらしい理想をかなえるよう、絶えず努力し、向上していただきたいと思います。



日⇄中翻訳のポイント(私の体験から)

武吉次朗

一、 翻訳とはどういうものか

翻訳の定義

私は、「ある言語で表現された情報を、別の言語の等価な情報におきかえること」という別宮貞徳氏の定義が、いちばん適切と思う。

—— 一種の再創作でもある

翻訳の基準

嚴復の言う『译事三难：信、达、雅（忠実に、なめらかに、美しく）』が、広く基準とされている。だが、この三つの要求をすべて満たすことは至難の業である。それゆえ欧州では次の格言まで生まれる。

Translations are like women……when they are faithful they are not beautiful, when they are beautiful they are not faithful.

中国語では、忠実の不漂亮、漂亮の不忠実。となり、日本では米原万里さんが、不実な美女か、貞淑な醜女か、といみじくも表現している。

日⇄中翻訳のポイント

次の二点に尽きる。

原文の理解力（中文日訳の場合は、単語の意味＋文法構造＋背景の諸事情）

訳文の表現力（中文日訳の場合は、漢文調から脱却し、こなれた日本語に）

私の添削経験によると、中文日訳によく見られるクセは、次のようなものである。

1. 原文にある単語をすべて訳す
2. 原文の語順にしばられる（動詞と目的語だけ入れ替える）
3. 原文の漢字に引きずられる

二、 情緒的な日本語、論理的な中国語

日本語はあいまい、客観的、自然発生的（相手の気持ちを傷つけないように）だが、中国語は逆に断定的、主体的、能動的、である。

例：そろそろ出かけよう / コーヒーでもいただきましょうか

携帯電話の使用はお控えください / たばこはご遠慮願います

お茶が入りました / お風呂が沸きました

電話が遠いようですが

もしも / まずは / 一応 / とりあえず / ちょっと

我不去 / 没有 / 严禁…… / 要、应该……

三、お茶漬けさらさら、こってり中華（引き算の日本文化、足し算の中国文化）

林少華教授によると、たとえば建築では、日本はシンプル、自然、木目、枯山水 だが、中国ではあざやかな色彩、凝った装飾、細工物が好まれる。また料理では、日本は食材自体の味を大切にし、舟盛り、姿焼き、姿煮を好むが、中国は徹底的に加工し、調味料、香辛料をふんだんに使う。文学では、日本は俳句の境地を好むが、中国は雄大、誇張を好む。

文章でも同様のことがいえる。

中国語の文章例：

全部、干净、彻底消灭反动势力。

反动勢力をすべて、きれいさっぱり、徹底的に消滅しよう。

世界上一切侵略者通通都要被埋葬掉。

世界のすべての侵略者は、みな残らず葬りさられる。

家喻户晓，妇孺皆知。

どの家でも知っているし、女性も子どもも知っている。

「お茶漬けさらさら」的な文体を好む日本人は、これを「くどい」と感じるが、中国語では似た意味のことばを重ねることによって、強調しているのである。いわば「こってり中華」である。

したがって、中文日訳のポイントは、「こってり中華」の原文から、日本語になじまない余分なものを削り、「お茶漬けさらさら」の訳文にすること、といえる。

以下、中文日訳を例にとり、その具体例を示す。

四、品詞ごとに見る処理法

① 代名詞

テレサ・テンの「時の流れに身をまかせ」の歌詞：

所以我求求你，别让我离开你 だからお願い、そばに置いてね

このように、人称代名詞は、付けないと意味不明になったり誤解されたりする時だけ付け、そうでなければ「削る」。

また、日本語の人称代名詞は多彩なので、適切に「選ぶ」。この二点がポイントである。

② 動詞

削る：喜欢吃饺子（ギョーザが好きだ） / 忘了带伞（傘を忘れた）

名詞形にする：决定召开会议。→「会議を開くことを決定した」よりも、「会議の

開催を決めた」の方がスッキリする。

他動詞を自動詞にする：姐姐生了一个男孩。「姉さんが男の子を産んだ」よりも、

「姉さんに男の子が産まれた」の方が日本語らしい表現である。

目的語の長い動詞（説、説明、表明、认为、希望、相信など）は、「次のように…
…した」と一旦切るか、「示しているように」といった処理が望ましい。

③ 助動詞

观众要维持比赛秩序，不要喝倒彩。

日本語は命令形をきらうので、「……しなければならない」「……べからず」はできるだけ避け、「……すること」「……しない」など、工夫が必要である。

④ 量 詞

一个女孩、一所学校、这本书、哪支笔？

下線部分は省略してよい。

⑤ 方位詞

桌子上 机の上で / 信中 手紙の中で / 屋子里 部屋の中は

下線部分は省略してよい。

⑥ 副 詞

都 却 则 就 竟 较 曾 已经

翻訳調を消すため、これらは省略した方が良いが、語尾または文末で、そのニュアンスを出すよう工夫する必要がある。

⑦ 前置詞

我对他说：…… かなりのレベルの人でも、「私は彼に対して言った」と訳すが、「私は彼に言った」でよい。

⑧ 接続詞

因为 所以 因此 并且 不仅……，而且…… 如果

これらも、副詞で述べた趣旨で処理したい。

⑨ 感嘆詞

疑問文は文末に必ず疑問符を打つなど、中国語では感嘆詞が多用されるが、日本語の訳文で同様に付けると、少々品の悪い感じになるので、「行った。」と「行った？」のように、付けないと意味が変わる場合のほかは、なるべく付けない。

☆重 複（中国語の重複は強調）

現在留学中 おおぜいの学生たち 全ての学生がみな 心で思う
目から涙があふれた 両方兼ねている 下へ降りた
従来から あとで後悔した 一番最後に 普通の庶民

☆和 語

四季の歌：心きよき：心地纯洁 「きよき」は 清彻、纯洁、洁白、纯真、清爽
心つよき：意志坚强 「つよき」は 强壮、强烈、厉害、坚强、擅长
心ふかき：感情深重 「ふかき」は 深厚、深重、深沉、密切、深奥
心ひろき：胸怀宽广 「ひろき」は 广大、广阔、辽阔、宽敞、广泛

逆に、ここにあげた中国語をまとめて、日本語の「和語」に訳せるか？

「きびしい」も、严格、严峻、严厉、严密、严明、严肃、严正、严重などがある。

和語は万能ではないが、漢文調を脱却し、こなれた日本語に訳すうえで有効であるので、日ごろから心がけたい。

☆ 同形異義語

「手紙」のように、同じ漢字でも日本語と中国語で意味がまったく異なる単語は、誰でも注意する。問題なのは類義語で、「意味や用法の微妙な違い」を把握することだ。

例：高度 亲切 热情 莫大 平和 自爱
批准 煮 汤 浜 滩 麻药

金若静著『同じ漢字でも』および『続編』に収録された同形異義語は、なんと444にのぼる。

☆ 多義語

同じ単語でも、文脈によりさまざまな訳し方がある。たとえば、
发展：つのらせる、はびこる、くり広げる、拡大する、高じてくる、伸びる……
反对：反する、闘う、攻撃する、…に対する闘争、敵対する……
同意：賛成、認可、許可、承認、合意、承諾、承知……
要求：要望、要請、申し入れ、言い渡す……

☆原文の語順にしばられる

我用铅笔在应该删掉的部分划了记号。

「鉛筆で削除すべき個所に印をつけた」では、「鉛筆で削除すべき」と受け取られかねないので、「削除すべき個所に鉛筆で印をつけた」と訳すべき。

谁打碎了玻璃？

「誰がガラスを割りましたか」は、日本語としては少しおかしい。「ガラスを割ったのは誰ですか」が日本語らしい。

国务院关于机构设置的通知

「国務院の機構設置に関する通達」と訳すと、「国務院の機構設置」について、別の組織が通達を出したようになる。正しくは「機構設置に関する国務院の通達」。このような例は、官庁関連の文章に特に多い。

五、 日常心がけること

☆何事にも好奇心をもち続ける

これは翻訳者にとり、ごく基本的な心構えである。

☆新聞を丁寧に読む

新聞記事はプロの書き手による文章なので、標準的な文体や単語の組み合わせを学べる。また新語も収集できる。

☆ 語感をみがく

類義語の微妙なニュアンスの差を感じ取る力を身に付けることである。

たとえば、ライスカレーとカレーライス。辞書には「同じもの」とあるが、何か違いを感じないか。このように、絶えず自分に問いかけ、辞書の余白に書き込むクセを付けたい。

☆強調しておきたいこと 2 点

① 外国語学習には“踊り場”がある

ある段階まで伸びると、そこで止まったように感じる。それが、何かを契機にして、グンと伸びたと感じる。このくり返しが、外国語を学ぶ過程なのである。日ごろの蓄積と挑戦が飛躍を生むわけだが、その「契機」は、社会人であれば、電話での会話、通訳の体験、翻訳の試みなど、人により、レベルにより、さまざまである。このようにして「踊り場」を抜け出せば、一段と高い場が、あなたを待っている。

② 結局は母語が決め手になる

たとえば「吃」は、人により場面により、食べる、いただく、召し上がる、食う、食らう、口にする、満喫、平らげる、かき込む、立ち食いする、がつつく……など、使い分けが必要である。また「飯」も、ごはん、ライス、めし……などがある。翻訳では、母語のレベルがまず試され、そのまま訳文に映し出される。

要するに、母語のレベルが、後から学ぶ外国語のレベルを決定する。

むすび：翻訳はおもしろい。

ピッタリの訳語を探り当てた時の快感を、一度味わったら病みつきになる。

翻訳はおそろしい。

自分の語学力や知識から性格まで、すべてさらけ出してしまうのだから。

翻訳はおくが深い。

まさに生涯学習である。日中間の交流が未曾有の広がりや深まりを迎えた中で、その架け橋になっているのが無数の翻訳者であり、一人一人は一本のねじ釘である。いつまでも錆びないねじ釘でありつづけたい。これが私の念願である。

(完)



2004 高考江苏优秀作文：水的成长

水，就像孩子，他们成长着，但在父母的眼中，孩子永远是孩子。

山，就像父母，虽然他们在一天天的老去，但在孩子的眼中，他们沉稳，让人能依靠，父母像大山，父母永远是父母。

天空中的小水珠，一滴两滴……凝结成一片厚厚的云，就像母亲腹中的胎儿，一天天的长大。

雨滴坠落下来，它们汇入山脚的溪流雀跃着。它们顺着山势顺着山的引导，奔流着。就像父母牵着跌跌撞撞的孩子教他们走路。

溪流顺着山势的引导进入了河流，河流翻卷起小小的水花，一朵两朵……像是调皮的孩子在跟父母做着鬼脸、眨着眼睛。而山是沉稳的，山有山的威严，看着那河流上的水花，他们只是静静地微笑。他们要担负着树林、草儿和小鸟甚至人类的生命。所以他们沉重，他们不能陪着河流去玩耍。

渐渐的河流明白了，他们不再像从前那么顽皮了，他们涌起河水，静静地舔着大山的脚底，好让大山站麻了的双脚放松放松。

儿女也明白了，他们端着一盆温热的水，放在刚下班回家的父母脚边，为他们脱下鞋，用水温润着父母的双脚，用手感受他们趾间的粗糙。

河流越来越宽大，望着沉重的大山，它想它应该为大山分担些沉重，所以它载起了航船。山望着河流笑了，笑得很舒坦，就像父母看见孩子把家里收拾得整齐后那种微笑。

渐渐的河流来到了平原，它与大山渐行渐远，大山的影子早已模糊了，但河流的记忆里大山依旧清晰。此时的河流已经能负起很重的大轮船了。

大山在眺望，蜿蜒的河流不知伸向何方，“孩子，路上小心啊！”大山在心中默念着。

终于，河流来到了入海口，曾经雀跃灵动的它，汇入了深沉的大海。学着大山的沉稳，海水水色深蓝；此时百万吨级的轮船载着货物载着旅人在它广阔的洋面上行驶着。

水の成長

水。それは子供のようなものである。日々成長しているが、親の目から見れば、子供はいつまでも子供である。

山。それは親のようなものである。日々老いてはいくけれども、子供の目から見れば、落ち着いていて頼りになる。親は大山のようで、親はいつまでも親である。

空中の小さな水のしずく。一滴、二滴…凝縮して一面の厚い雲になり、母親のお腹の胎児のように、日々成長する。

雨滴は落ちて山麓の溪流に流れこみ、小躍りする。地勢に従い、山の導きに従い、激しく流れる。つまずきよろける子供の手を引きながら、親が歩き方を教えているように。

溪流は導かれながら川に入りこみ、しぶきを巻きおこす。いたずらな子供が、親の前でおどけた顔をし、まばたきしているように。だが山は落ち着いたもので、山には山の威厳があり、川面のしぶきを見ながら、静かに微笑んでいる。山は林、草、小鳥、そして人類の命までも担わなければならない。だから山は落ち着いており、川の相手をして遊んではいけない。

川もしだいに分かってきたので、それまでのようにいたずらではなくなり、水を湧きおこし、山の足もとを静かになめ、その痺れた両足を楽にさせる。

子供たちも分かったので、たらいの湯を両手で持ち、仕事から帰ったばかりの親の足もとに置くと、靴を脱がせてやり、その足を湯で温めながら、指の間のごつごつした感触を両手で受けとめる。

川はますます広くなり、重々しい山を眺めながら、山のために少しでも責任を分担すべきだと考え、船を載せた。山は、川を眺めながら笑った。とても気持ちよさそうに笑った。まるで、子供が部屋をキチンと片付けるのを見た親の微笑みのように。

川は平原までやって来た。山はしだいに遠ざかり、とっくに霞んでしまったが、川の記憶にある山は、依然くっきりしている。川は大船を浮かべるまでになっていた。

山は眺めていた。うねうねと流れる川は何処へ行くのか。「わが子よ、道中、気をつけて！」山は祈った。

とうとう川は河口にたどり着き、跳びはねていた水は深い海に流れこんだ。山の落ち着きにあやかっただけ、海の色は紺碧。百万トンの大船が貨物と旅客を乗せ、大海原を航行していた。

日本ビジネス中国語学会 2006 年度第一回研究会

ニュースなどに使われるカタカナ語（外来語）の中国語訳を考える

…安倍総理所信表明中のカタカナ語（計 109 回）はどう訳すか…

待場 裕子

9/29 付け毎日新聞夕刊記事「カタカナ言葉 109 回」

新首相の所信表明演説、政策面でカタカナ言葉が延べ 109 回現れ、歴代の首相より圧倒的に多いと報道。次の例など、ピンとこないものも多く、多用の効果には疑問符も付きそうだと報道。

次頁に演説中に見られたカタカナ語などを集中的に拾ってみました。

「自宅での仕事を可能にするテレワーク」

「日本がアジアと世界の架け橋となるアジア・ゲートウェイ構想の推進」

「未来に向けた新しい日本のカントリー・アイデンティティ」

9/24 付け毎日新聞「時代の風」欄

「言葉の花火の裏側は？」と題して同志社大学浜矩子教授は、「安倍屋の花火言葉にはカタカナ語が多い」と指摘、「見ていて目がチカチカする。まさに「見る」という感じで「読む」雰囲気はおよそない。次々と打ち上げられては消えていく言葉の数々…」と手厳しい。

安倍総理は目下アジア外交に大変熱心。先日初外遊として中国、韓国を訪問したことが、世論調査で、80%以上の支持を得ていると報じられています。試みに、先ず 9 月 29 日 NHK の中国語ニュースを採録したものを視聴して下さい。

ご参考までにその部分の原稿をダウンロードしたもの（別紙）をご覧下さい。ここでは難訳な日本語「筋肉質の政府」「新たな思考に基づく、主張する外交へと転換するときが来た」などが、さすがにうまく訳してあります。

日中用語対照表作成にあたり、中国語通訳としてご活躍の神崎多実子氏及び、周喆氏（流通科学大学流通科学研究科博士後期課程終了、県立伊川谷高校非常勤講師、サイマルアカ

デミー講師を経て、現在派遣で大手メーカーに翻訳・通訳として勤務)に多大なご協力を頂いたことを感謝します。以下皆様のご意見も頂きつつ、本表を完成させたいと思います。

私の感想としては：①カタカナ語によって、「スマートさ」を売り出したいのでしょうが、日本語との無理な組み合わせにより、意味不明、空虚に聞こえる例。②日本語として定着しており、逆にこのカタカナ語でないと、本来の意味を説明する方が煩わしい例。③日本語の中でも、純粋な和語の使用例が少ない。中国語訳に苦労はするが、もっと多用して欲しい。④中国語への訳は圧倒的に意識が多い。しかし、もし通訳を生業とするなら、これら全てを中国語訳できる必要があるので、あえてこの課題に挑戦しました。



9 月 29 日安倍総理所信表明（毎日新聞 9/29 付）と中国語ニュースへの翻訳例

所信表明演説	发表政见演说
美しい国	美丽国家
はじめに	开场白
戦後生まれの総理	战后出生的首相
国政を預かる重責を与えられた	被赋予治理国家的重任
身の引き締まる思い	深感责任重大
不可欠	不可或缺
イノベーション	技术革新
オープンな経済社会	开放的经济社会
成長なくして財政再建なし	没有经济增长就没有财政重建
歳出削減を徹底する	彻底削减政府开销
簡素で効率的な「筋肉質の政府」	简朴而有效率的“精炼务实的政府”
消費税率の引き上げ	提高消费税率
「逃げず、逃げ込まず」という姿勢で対応	以不回避、不逃避的姿态对应
主張する外交への転換	转轨实行持有主见的外交
拉致被害者の生還	绑架受害者回国
ノーベル物理学賞受賞者	诺贝尔物理学奖得主
アインシュタインの言葉	爱因斯坦说的话
「日本人が本来もっていた、個人に必要な謙虚さと質素さ、日本人の純粋で静かな心、それら全てを純粋に保って、忘れずにいてほしい」	希望日本人能不忘与生俱来的谦逊、朴素、纯洁和安静的心

安倍首相发表政见演说称将把日本建成美丽国家

日本首相安倍晋三 29 号在众参两院的全体会议上发表政见演说，表示将以建设美丽国家为目标，继续走小泉前首相的结构改革路线，并全力推动教育改革。

安倍首相在演说的开场白中表示：“作为战后出生的首相，被赋予治理国家的重任，深感责任重大。”此外，他提出要将日本建设成为一个“美丽国家”的目标。并表示，为了让日本继续繁荣下去，持续稳定的经济增长是不可或缺的。因此，必须通过发明、技术革新，以及缔结自由贸易协定等努力，建构一个开放的经济社会，为日本的经济注入新的活力。

接着，他还指出：“将在‘没有经济增长就没有财政重建’这一理念下，继续维持经济增长，并彻底削减政府开销。”从而向内外表明其继续走结构改革路线的决心，以及其志在实现一个简朴而有效率的“精练务实的政府”。

但是，面对即使彻底实行上述改革也无法完全对应的，伴随着社会保障和少子化等所增加的负担，安倍表示，为确保稳定的财源，必须推动彻底的税制改革，因此，就提高消费税率的问题，他表示将“以不回避、不逃避的姿态对应”。

另外，安倍还表示，为了实现把日本建设成一个美丽国家的目标，教育改革是必不可少的。他表明，将及早完成教育基本法修正案的制定，并且为推动国公立教育的改革，尽快成立“教育改革会议”。

另一方面，在外交、安全保障政策方面，安倍指出：“转轨实行持有主见的外交的时机已经到来”，从而表示“将更明确地表现‘为世界和亚洲而存在的日美同盟’，并为强化日本和亚洲的连带感，积极地在外交上做出贡献。”

此外，为解决北朝鲜制造的绑架问题，安倍表示已经决定设置一个由他自己出任总部长的“绑架问题对策总部”，在同时进行对话和施加压力的方针下，强烈要求北朝鲜让所有的绑架受害者回国。

另外，安倍还指出：“中国和韩国是重要的邻国”，从而表示将努力促使和两国之间中断多时的首脑会谈获得重开。

另一方面，就宪法的问题，安倍表示：“现行的宪法，是在日本被占领的时期制订的，而且已经实行了将近 60 年。希望朝野各党能够就制定一个符合新时代的宪法，深入进行讨论，并提出一个明确的方向。”从而对早日完成规定修改宪法程序的国民投票法的制定，表示了期待。

在演说的最后，安倍首相引用了已前诺贝尔物理学奖得主爱因斯坦在访问日本时说的话：“希望日本人能不忘保有与生俱来的谦逊、朴素、纯洁和安静的心。”

日本語（カタカナとの合成語を含む）	中国語訳
再チャレンジ支援策	支援(支持)重新(第二次)挑战的对策
世界のグローバル化	全球化
イノベーション 25	创新 25, 技术革新 25 (实行到 2025 年的长期政策)
WTO ドーハ・ラウンド	WTO(世贸组织)多哈回合 杜哈回合(台)
アニメ	动画片, 美术片, 卡通
コンテンツ	内容, 目录, 存储信息
ベテラン人材	老手, 老把式, 老练的人, 内行, 老将 人才
ニート	啃老族, 靠老族, (大陆) 尼特族(台)
フリーター	自由职业者, 自由打工者(大陆) 飞特族(台)
パートナーシップ	合作伙伴关系
ゼロベースの見直し(財政再建)	零基预算财政改革
プライマリー・バランス	初级(初步)平衡
レジーム	制度、体制
テレワーク	(中网)家庭办公人员、远程工作 (台网)電傳勞勤
道州制ビジョン	道州制构思
グランドデザイン	宏伟蓝图
セーフティネット	安全网
アジア・ゲートウェイ構想	亚洲桥头堡构想
ハードル	障碍、跨栏
新健康フロンティア戦略	为了健康重视预防和延寿的新开拓战略
レセプトの電子化	医疗保险账单电子化
ベビーブーム世代	生育高峰世代, 婴儿潮世代
子育てにフレンドリーな社会	易于养育孩子(抚养孩子)的社会
バイオエタノール	生物乙醇
バイオマス	生物质、生物体
リーダーシップ	领导作用, 带头作用、领导能力
カントリー・アイデンティティ	国家主体性(认同)
テロ対策	反恐对策
メールマガジン	电子邮件杂志、e-mail 杂志
タウンミーティング	街头讨论
ライブ・トーク官邸	官邸的现场直播脱口秀

(純) 日本語	中国語訳
主張する外交への転換	“转轨实行持有主见的外交”
解体的出直し	彻底拆毁之后重新构建
年金定期便	定期通知养老金金额
メリハリの効いた配分	有重点、分主次的分配
人生二毛作	(一年两茬 二熟制)
払い損	白付费
筋肉質の政府	“简朴而有效率的“精练务实的政府””
黒字化	盈余化 顺差化
逃げず、逃げ込まず (消費税)	“以不回避、不逃走的姿态对应”
格差	差距
戦略的互惠関係 (ウインウイン)	双赢 战略性互惠关系



ビジネス中国語と私

榎原茂樹

1. 中国とのビジネスに役立つ中国語学習方法

- ・正しい発音 日中発音の違いを体得すること
 寛音窄音、 卷舌音、 有気無気、 四声

日本人が中国語を駆使してビジネスを行なう際、まず正しい中国語の発音が出来ているかが重要なことと思います。日本語の発音と異なる中国語の発音が頭ではなく口から自然に出てくるか、出来ているかと云うことです。日本人はともすれば外国語を学ぶとき、その発音のベースを日本語の発音に置き換えてしまいがちです。私たちが生徒・学生時代に習った英語が未だにジャパニーズイングリッシュに留まっているのも何処かで学び方が間違っていたように思えてなりません。It is a pen.の例：

中国語の発音で日本語と異なる特徴として、寛音窄音、 卷舌音、 有気無気、 四声等が挙げられます。しかし一通りマスターしたと思っていても、どこかネイティブの普通語と異なっていることが多いということです。この違いが判り自分のものにすることが肝要と思います。

私自身そしてこれまで数多くの日本人のしゃべる中国語に接してきた経験から、日本人として発音で陥りがちな代表的な盲点をここに一例として挙げ、学習の要点として紹介したいと思います。

中国語の無気、有気と日本語の濁音と清音の違い：b、p；j、q；g、k；h

日本語にない中国語母音の正しい発音：e、eng；yu；an、ang；

四声と力点、轻声：三声→二声（取得、改為）；再見、困難

- ・表現力を身につける より中国語的な表現を
 「浅近聊天」「东鳞西爪」
 声に出してみること
 成語、俗語、諺

言葉・文章の「表現力」については、正しい発音の習得と共に、ある程度中国語の力がついた段階から求められる重要課題であります。日本語でもそうですが、味のある表現や気の利いた言葉や文章が、意思疎通をスムーズにするものです。特にビジネスにおいては的確さに加え極めて重要なファクターとなります。学習の方法は色々ありますが、私の場合は、外大の3年生の頃より日本人でありながら中国人が習いに来るという偉大な巷の大先生に師事しました。日本名：和中昌之先生、中国名：高建夫先生で、残念ながら数年前他界されましたが、師の教えは私のその後の対中ビジネス活動の中でどれだけ役に立ったか計り知れません。師の他界後、幸い高弟等により、最近そのエッセンスが出版されまし

た。題して中国語学習シリーズ1「浅近聊天」及びシリーズ2「東隣西爪」(CD付)です。何れも簡単な会話のフレーズですが、これを声を出して何度もやれば、自然と身に付くから不思議です。本日、この本を持ってきましたので後ほどご覧になってください。この本の出版に少し協力したこともあって御入用の節はシリーズ1を¥600、シリーズ2を1600円と割安でお分けします。きっと貴方の強い味方となるでしょう。

ここで夫々の一部を紹介する。

中国語成語諺等の理解と活用：

(例) 班門弄斧、車到山前必有路、酒逢知己千杯少

中国語ことわざ用法辞典 大学書林

・時事中国語

日中の新聞から学ぶ、外来語の対訳

時事中国語の掌握の大切さ

時代の流れの掌握と時事中国語の習得も大切なことです。私は文化大革命が終結するまでの間、毛沢東語録から「成語」や「諺語」「慣用句」などを全て抜き出し、その使われ方を研究し、当時のビジネスネゴに大変役立ったことを思い出しています。学習材料は時代時代で変遷はありますが、それを学び活用する気持ちが何時の時代にあってもビジネス成功に繋がるものと確信しています。

世界是你们的是我们的,但是归根结底是你们的。你们青年人朝气蓬勃,正在兴旺时期,好像早晨八九点钟的太阳,希望寄托在你们身上。(語録の歌も)

最近、中国における時事中国語は凄い勢いで生れ且つ変化しており、その掌握は難しくなっていますが、極端に言えば時事中国語の理解と活用力なくしてビジネスの成功なしとも言えるかも知れません。先ほど、待場先生より大変意義のあるお話がありましたが、時事中国語の中では日本語のカタカナ語が増え続けており、これらの中国語を知っておくこともビジネスの役に立つことでしょう。中国語の新語に関しての参考文献としては、やや後追いではありますが、莫邦富氏の著作(変貌する中国を読み解く新語辞典、中国新語最前線)などは手っ取り早い助っ人となるでしょう。

・ビジネス背景の把握

日中及び世界情勢の的確な把握

事情の的確な把握

中国と様々なビジネスを行う為に必要なことは、先ずは相手国の政治・経済事情を正しく理解すること、また日本の事情そのものの把握、そして関連する世界事情などを知ることがビジネス成功の鍵となるでしょう。これはごく当たり前のことではありますが、私の仄聞するところでは、これがしっかりしていない為、ビジネスチャンスを逃したり、挙句の果て問題を起こしたりした例は多くあります。即ち、中国語での説得力に迫力が欠けたり、相手の中国語に対する理解不足によるものです。

・日本語力の向上

中国語のレベルアップには日本語力のアップ

日本語表現力の向上

外国人の学ぶ母語以外の外国語のレベルは、母語のレベルを超えることがないのは当然のことです。ただ、母語のレベルに近づけることは可能です。そのためには、自らが母語の表現力を引き上げることが必須マターといえるでしょう。前述した高建夫先生の日本語の表現は聞き惚れるほどのレベルであったればこそ、聞く人をうならせる中国語の表現にリンクしていたことで実証されます。

2. 中国取引から・・・忘れえぬ1コマ

・塞翁失馬

火力発電プラント、唐山大地震

火力発電プラント

1973年夏、唐山火力発電所新設プロジェクトに東芝・IHIと組んで商談。国交回復後初の大型火力プラントの引き合いとて、日立グループとの熾烈な受注合戦を展開。私はタービン部門の技術通訳として参加しましたが、最終的には我がグループは敗退しました。

唐山大地震

成約に至った日立グループは成約後、建設サイトの唐山に担当者を送り込み建設への準備を進めていた。そこへあの大地震が襲い、日立と関係商社の方が亡くなられた。今にして思うと、あの商談に成功しておれば、行き掛り上、私が現場に派遣され、同じように遭難したに相違いありません。商談敗退は悔しい限りではありますが、それ故に命が救われたこと、正に人間万事塞翁が馬を身にしみて体験、亡くなられた方の冥福を祈るのみでした。

・実盤报价

大豆輸入商談での出来事

大豆ファームオファー

中国は今では大豆は輸入国となったが、国交回復以前より中国の東北地方で取れる黄大豆は対中輸入の主要商品の一つであった。文革さめやらぬ70年代の初め、北京に一人で駐在時、10月9日の午後、糧油公司より、数千トンのファームオファーを受けた。オファー期限は10日午後5時。当時は日中間の通信は電報で、普段は翌日配達の日付印電報で発信しているが、今回は緊急でもあり加急電報を東京本社に打った。私は毎日、その日の出来事を全て夜、整理し、あくる日に備えていた。夜12時近くになり、今日の大豆のオ

ファーの件を記録していて、10日が日本の祝日であったことに突然気が付き、顔面蒼白となった。その時点で日本よりの返電が届いていないということは、会社には電報が着いたものの、誰も見ぬまま、休日に入ったものと思われる。このままでは折角のオファーが流れ商機を逸することとなる。日本は既に午前一時を回っており、糧油公司にも連絡も取れない。明日を待たざるを得ないことは重々判っている、それから殆ど寝るにも寝れず、おまけに緊張の余りか、おデコにタンコブが出来、それが大きくなりだした。明くる朝、先ず糧油公司に連絡し10日の祝日の失念を伝え、オファー期限の延長を懇請し、11日までの延長の確認を得た上、本社の営業責任者の自宅に緊急の国際電話を入れ、事なきを得た。オデコのタンコブはこれにて凹み出し、11日の久しぶりの大量成約をもって完全に元のオデコに戻り、本当にヤレヤレ的一幕でした。



中国の知的財産権について
中国語翻訳の事例を交えて
北原 恵

内 容

1. 知的財産権とは？
2. 中国における知的財産権の推進
 - ・知財に関する中国の国家政策
 - ・中国における知財の出願状況
3. 知的財産権の実務
 - ① 日本企業を悩ませるコピー商品
 - ② 中国語翻訳を生かした具体的事例
 - ・中国特許法（一部抜粋）
 - ・裁判、法律用語の事例（商標権侵害の訴訟）
 - ・日本語と中国語の誤訳問題

1

1. 知的財産権とは？



2

知的財産権の種類

内容	知的財産	知的財産権	知的財産法	権利期間	所管
人間の精神的活動による創作物	発明	特許権	特許法	出願から20年	経済産業省 特許庁
	考案	実用新案権	実用新案法	出願から6年	
	意匠	意匠権	意匠法	登録から15年	経済産業省
	回路配置	回路配置利用権	半導体回路配置法	登録から10年	
創作物	植物新品種	育成者権	種苗法	登録から10年	農林水産省
	著作物	著作権	著作権法	著作者の死亡から50年	文部科学省 文化庁
	営業秘密		不正競争防止法		
	商標	商標権	商標法	登録から10年 (更新登録可能)	経済産業省
営業上の信用を 化体した標識	商号	商号権	商法		
	原産地表示		不正競争防止法		

注) 特許権、実用新案権、意匠権、商標権の4つを総称して産業財産権と呼ぶ。

3

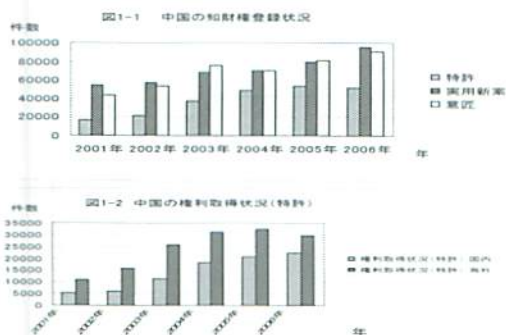
2. 中国における知的財産権の推進

中国政府の知財戦略

- ◆ 1979年 中国とアメリカの二国間交渉「中米間の高エネルギー物理に関する協定」「中米貿易協定」
⇒ 中国での知財に対する関心の高まり
- ◆ 1979年 中国で初めての知的財産権に関する立法 = 罰法（登録商標の専有権を定め、この権利を侵害した場合の刑罰について定めた）
- ◆ 1985年 中国特許法施行
- ◆ 1993年 中国特許法第1次改正施行
- ◆ 2001年 中国特許法第2次改正施行
- ◆ 副首相 吳儀が中国の知財政策を推進
 - (1) 包括的な政策の立案 (2) 海外制度の研究
 - (3) 情報ネットワークの構築 (4) 地方行政の管理監督
- ◆ 2006年 「知的財産権保護行動計画」を制定「知的財産権保護行動綱要」を制定
- ◆ 2008年 中国特許法第2次改正施行(予定)

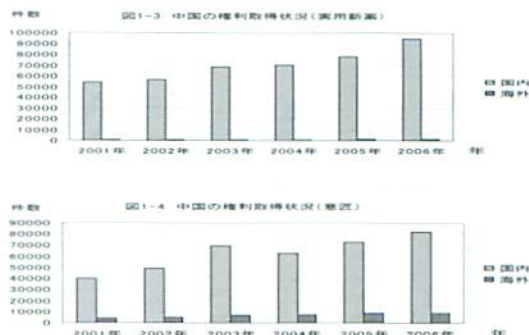
4

中国における知財の出願状況(統計データ)

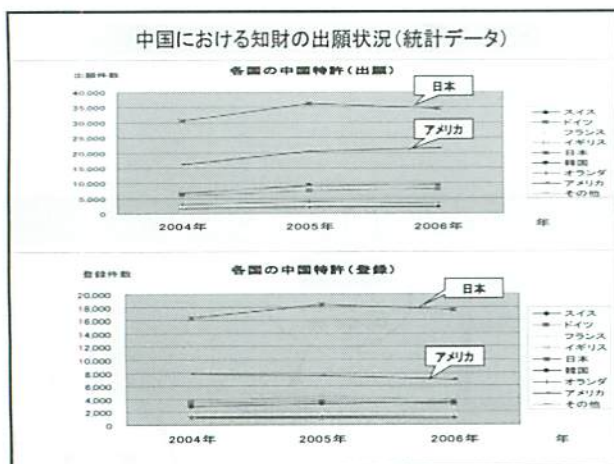


5

中国における知財の出願状況(統計データ)



6



中国における知財の出願状況(統計データ)

2005年 中国への特許出願件数 外国企業トップ10

順位	国名	企業名	出願件数
1	韓国	三星電子株式会社(サムスン)	3,159
2	オランダ	Royal Philips Electronics(フィリップス)	2,602
3	日本	松下電器産業株式会社	2,530
4	日本	ソニー株式会社	1,456
5	アメリカ	IBM	1,213
6	韓国	LG電子株式会社	1,126
7	日本	株式会社東芝	1,075
8	韓国	三星SDI株式会社	1,052
9	日本	セイコーエプソン株式会社	1,045
10	日本	キャノン株式会社	915

出所) 中国国家知識産権局のデータより



3. 知的財産権の実務—

①日本企業を悩ませるコピー商品

制假售假 越打越多, 越打越难

台湾九份のPanasonic?

税関で摘発されたブランドものの複製

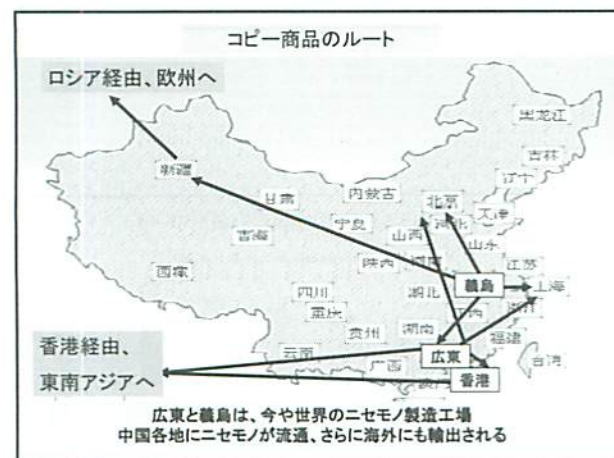
口の部分が粗く平面的

口の部分が滑らか

どっちが本物?

偽物

本物



中国における取締り機関の一例

AIC(国家工商行政管理局)	TSB(国家質量技術監督局)
・市場の競争行為・違法行為を取り締まる ・模倣品を取り締まる ・経営者と消費者の権利を保護する ・商標権侵害行為を取り締まる ・広告に対する管理・監督・取締り	・製品の品質問題に関するクレーム処理 ・製品の品質に関する検査・鑑定 ・生産・販売過程における模倣品の違法行為を取り締まる ・工業製品の生産許可証の発行

<流通と販売>

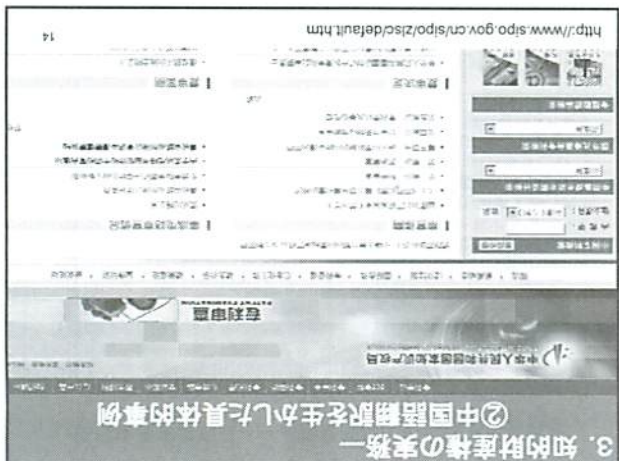
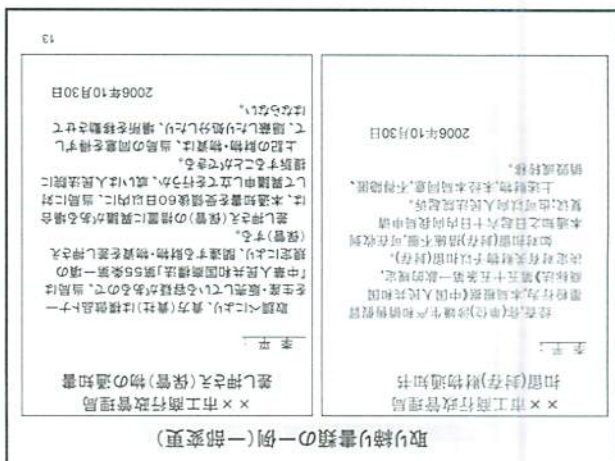
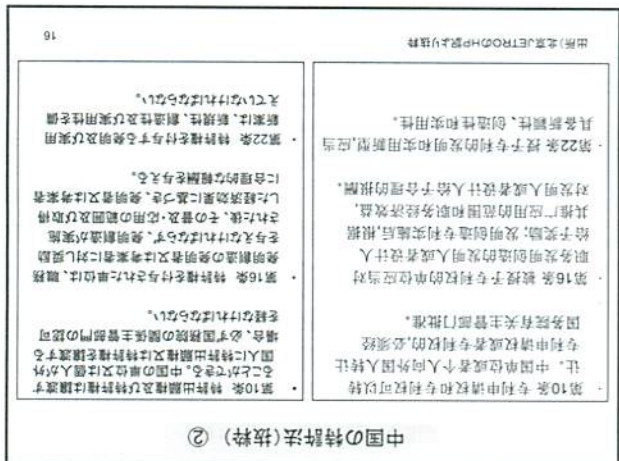
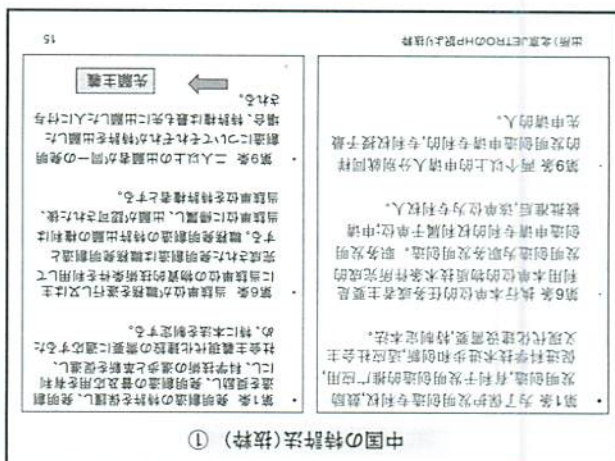
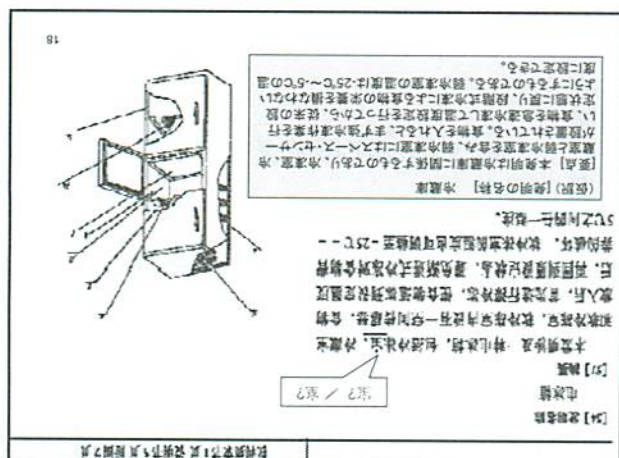
<製造と販売>

<中国知的財産権事件 5つの特徴>

1. 受理件数が連続して増加
2. 著作権、特許権事件の比率が大きい
3. 権利侵害事件が多い
4. 渉外事件の比率が上昇
5. 情報技術、ハイテク技術の発展に伴い、関連する事件や新型事件の発生

司法ルート × 行政ルート

取締りの法的根拠 ⇒ 中国の商標法、製品品質法など



商標権侵害の訴訟——商標登録出願の棄却補正理由書

「我们公司、株式会社A(以下略称“申请人”)、于2006年10月30日就其指定使用于国际分类第7类“包装机、自动裁切机”等商品上申请注册的“第37899910号”A”商标(以下略称“申请商标”)被中华人民共和国国家工商行政管理总局商标局部分驳回一案向约会申请复审,约会已经受理。

約会: 中国の特許審査機関(国名省略)

YAHOO!

電産

SONY

Haier

YAHOO!

JAPAN

19

「弊社、株式会社A(以下略称“出願人”と称す)は、2006年10月30日、国際分類第7類に使用指定されている「包装机(ラッピング・マシーン)、自動裁断機」などの商品に出願登録している第3789910号「A」の商標(以下、略称「出願商標」と称する)が中華人民共和国国家工商行政管理总局商标局によって部分的に棄却された案件について、約会に不服審判を申請し、約会に既に受理された。

商標権侵害の訴訟——商標登録出願の棄却補正理由書

「引证商标系恶意抢注驰名商标,申请人已依法对引证商标提出异议,引证商标的申请注册严重、明显违反商标法律,其初审定最终必然会被撤销。因此申请商标在“包装机、自动裁切机”商品上不存在注册障碍,申请商标符合商标法的规定,应准予在全部指定商品上初步审定。

lenovo

Panasonic

ideas for life

「例示によって証明した商標(例証商標)は悪意に著名商標を奪って登録したものであり、出願人は既に法に基づき例証商標に対して異議申し立てを行っている。例証商標の出願登録は著しく、明らかに商標の法律に違反するものであり、その初回の査定は最終的には必ずや取消されなければならない。ゆえに、出願商標で「包装机(ラッピング・マシーン)、自動裁断機」の商品に登録上の障害は存在せず、出願商標は商標法に規定に合致する。よって、全ての指定商品に初步的な査定が与えられるべきである。

20

日本語と中国語の誤訳問題

◆ 誤訳はなぜ発生するのか？

前提) 特許の出願書類は、日本語の明細書を中国語に翻訳する
海外のどこに出願しようとも、出願する現地国の言葉で出願



- ・中国では、日本語を使える人材が、英語を使える人材よりも圧倒的に少ない。
- ・翻訳期間、時間が十分でない
- ・特許の明細書は専門性の高い用語が多用されて、一般の翻訳者には解かりづらい ⇒ 発明を理解できる者(技術者)が翻訳を行うのが理想的
- ・修飾語、係り結びの関係が複雑な日本語
多義語が多く、外来語が多い日本語表現に誤訳が発生しやすい

21

日本語と中国語の誤訳問題

◆◆◆ 誤訳の例 ◆◆◆

日本語	意味の解釈(2通り)		中国語の表現(2通り)	
～に	中に	上に	～中	～上
～ために	原因	目的	因为～	以～为目的
手段	方法	装置	方法	装置
シリンダ	油圧	気圧	油缸	汽缸
期間	幅のある期間	一点の時間	期间	～时
チップ	Tip	Chip	小费	芯
リード	Lead	Read	导线	解读

出所) 日本知財協会の資料より

22

おわりに

本日は長い時間
ご清聴ありがとうございました

感谢各位来参加今天的研究会!



23

中日・日中貿易用語辞典編集を終えて

戸毛 敏美

現在、中国語教育の分野でも即戦力が要求され、日本ビジネス中国語学会が主催するビジネス中国語検定試験も昨年末に第15回が実施され、大阪会場の他東京でも開催されるようになり、また中検試験も数年まえから「スコア式ビジネス中国語検定試験」が実施されはじめています。最近では中国でも重視されるようになり、HSKでもビジネス中国語に関する能力測定試験を実施するような動きが出ております。

当学会藤本会長、胡士雲先生と私が中日・日中貿易用語辞典を編集しようと考えたのは10年前です。藤本先生も私も日中ビジネス界に入った頃はビジネスに関する日中・中日の辞典はなく、手探りでとにかく単語を覚え、自分なりの単語帳を作成してきました。そこで三人が協議して考えたのは最低中国語学習者がマスターすべきビジネス用語を、多くの資料を収集し、パソコンの機能をフルに活用し、頻度が高く最低身につけるべき用語に絞り込み、それらに最適な例文を付して、しかもそれらにはそれぞれ最適な対訳をつけ、辞書として単語を検索するだけではなく、ビジネス文の翻訳学習にも活用して貰うことを目指しました。これらの膨大な資料整理、検索には胡士雲先生の絶大な協力なしには出来なかったことを、特にここでご紹介しておきたいと思います。私もこの編集作業でパソコンをなんとか使用できるようになりましたのも大きな成果でしょう。

一. ビジネス中国語は面白い：

三人がこの辞書を編集しようと思った動機の一つに、ビジネス用語が大変面白いことが挙げられます。最初に「船積」「装船」を見た時驚きました。え？船を積むの？でした。パソコンで「船積」と入力すると、必ず下に波線が入り警告されますし、中国語でも変な言葉です。また商社に入って「乙波」「乙仲」「玉」「本船」などぼんぼん出てくる単語に驚き、辞書を引いても出てきません。尋ねると「乙波」とは「オファー」のこと、「乙仲」とは「通関代理業者」、「玉」は「貨物」、「本船」は貨物を積む船を指すと知り、単語帳に記入したことを今でも覚えています。輸出は「出口」と書くし、輸入は「入口」を表す「进口」、「发票」は通常それまでは「領収書」という意味で使っていたものが、貿易業界用語では「インボイス」であり、「大路货」は定番品を示し、「回复」は「回復」という意味ではなく「返信を出す」という意味になります。よく中国語履修者が間違い、検定試験の受験者でもよく間違えるのは「这笔合同」「这笔交易」です。「この筆の契約書」「この筆の取引」ではなく、中国語には「这」「那」「哪」の後ろに名詞がくると、大抵それぞれの名詞に相応しい量詞をつけなければならず、これが中国語履修者にとっては頭痛の種です。とはいっても日本語でもあるので同じですが。つまり「筆」はお金に関する名詞「货款」「钱」「合同」「交易」の「量詞」なので、この場合は「この契約書」「この取引」と翻訳すべきなのです。

「接受合同」も日本語流に考えると「契約書を受け取り」のようですが、これは本当に

トラブルになった例です。新米の商社マンがてっきり「契約書を受け取りました」という意味だと思って、中国側に返信したところ、後に中国側から「貴方は契約書の条件を受諾したと言ってきたのに、まだ何を文句いつているのか」と苦情がきて、初めて「接受合同」の意味が「契約書の内容を受諾した」という意味になることを思い知らされたのです。

「达成协议」も実際に大きなトラブルになった例です。ある会社の翻訳者がこれを「協議に達した」と字面から翻訳したのです。ところが中国語では「合意に達した」という意味なので、中国側は日本側が合意したことを実行しないとかんかんに怒って、協力プロジェクトが破棄寸前になり私の所に持ち込まれました。日本側はなぜ中国側が怒っているのかが分らないとのこと、そこで訪中するに際し全資料を頂戴し、夜も寝ずに読み返し、対訳を照合してこの一句に問題があることに気付きました。「なーんだ！」で商談はうまくいきましたが、本当にビジネス中国語の翻訳は面白いと言えば面白いし、大変と言えば大変です。

二. 思わぬ蹴躓き：

編集の最終段階で私たちは大変な問題に遭遇しました。それは何となくふっている送り仮名でした。

たとえば「受取」「受取り」「受け取りました」「受取書」、「売切れ」「売り切れました」「売切品」、「売出」「売り出しました」「売り出し」「売出日」。どうですか、どこが違うのでしょうか。これらをどのように統一すべきか討論を重ね、全文チェックし直しました。これは思いもかけない作業量となり、日本語の難しさを改めて実感致しました。

三. 得其意・忘其形：

60年代初め中国の代表団を案内していた際のことです。「何故大日本を売り出すの？」と質問され驚いて、「どこにそんなことが書いてあるの？」と聞くと横断幕を指したのです。「本日大売出し」とありました。中国では縦書きの習慣は左からですので、左から読んだのです。同じ文字を書く両国だから起きる誤解です。交通事故多発でしかもオイル危機の時代で街に「油断一秒、怪我一生」という標語が掲げられたころの事です。中国の代表団から「油が一秒切れたら、どうしてそれが一生涯私の責任になるの？」と質問され、最初聞かれている意味が何か分かりませんでした。すると「ほれあそこに書いてあるでしょう」と指したのは交通標語でした。なるほどと感心している場合ではないですね。中国語の「怪我」は「私の所為です」「私が悪いのです」という意味だからです。

ケネディ大統領が殺された時の人民日報に「刺身死」とあり、日本の商社マンがびっくりし、しばらくは「刺身になって死んだ」の話題でもちきりでした。

また毛沢東が亡くなった直後、新聞に「你办事,我放心」とあり、商社マンは日本語流に「われ放心状態になった」と理解したのです。でも実は「放心」ではなく「安心」なので、本当に面白い誤解です。

また60年代初め、中国代表団をお迎えして太閤園で歓迎会が開かれ、私が初めて通訳をした時のことです。全部挨拶の通訳が終了後、司会者が「代表団の皆様どうぞ台から

下りてください」と言われ、とっさに「請下台！」と訳して自分でもはっ！として笑ってしまいました。代表团もどっと笑って「下台了！下台了！」と口ぐちに言いながら舞台から下りて行きました。文革初期で中国の人々が大変緊張しており、こわばっていた顔が急に笑顔になったのですから、舞台の下でカメラを構えていた記者が一斉にフラッシュをたきました。翌日新聞にも「大変和やかな雰囲気です」と書かれてこの写真が出ていました。

皆から翌日「怪我の功名」と褒められ、翌年訪日された孫平化さんからは「君なかなか先見の明があるよ」などと褒められました。実は本当に代表団のメンバーが失脚したからです。中国語では「下台」が「失脚」という意味で、「失脚」と書くと「膝から下を失った」ことになりのですから、本当に字面に捉われないように心掛けなければと思いました。

このような例は枚挙にいとまがないほど沢山あります。「上台」「出台」「就職」「就業」「野菜」「出道」。

ビジネスでは日本語の「提出」は「提交」と、中国語の「提出問題」は問題提起の意味、日本語の「言及」が「提起」でややこしいですね。

60年代、ある日本の客が帰国後会社の総経理宛てに礼状を書き「その節は大変お邪魔致しまして恐縮に存じます」と書いた所、総経理秘書の日本語翻訳者が呼び出され「君見てごらん。日本人は我々共産党の中国は邪悪な悪魔に大きく変身していて、恐れおののいて縮み上っていると書いて来たよ」と言われたとのこと。なるほど！

四. 敬語のあれこれ：

古い中国にも結構多くの敬語があり、香港台湾の老社長からの手紙の翻訳ではよく泣かされました。そこでこつこつこれらの書簡用語を収集してきました。これが今回の辞書作りで少し役に立ちました。でも日本語の敬語も更に難しいことを今回実感しました。

早速「諒已收悉」の対訳の間違いを発見しました。正しくは「すでにお受け取りのことと存じます」で、自分の出した手紙に「ご拝受」とは言わないのです。

その他胡先生から中国ではこうは言わないというのを指摘して頂き、大変参考になりました。詳しくは当日配布のメモをご参考にして下さい。

【当日配布メモ】

中日・日中貿易用語辞典編集を終えて

一、ビジネス中国語は面白い

船積 乙波 乙仲 本船渡し

装船 养病 养伤

进口 出口 发票 递盘 大路货 转船 回复

这笔合同 大札 忽奉大札 府上 贵府

★接受合同

★达成协议

恐妻家 气管支炎 气管炎（妻管严）

自己介绍 自己照顾自己

二、思わぬ蹴躓き——送り仮名

受取 受け取りました。 受取り 受取書

売切れ 売り切れました。 売切れ 売切品

売出 売り出しました。 売出し 売出日

三、得其意・忘其形

本日大売出 出卖大日本

油断一秒 怪我一生 油断一秒 怪我一生

肯尼迪刺身死 你办事，我放心

下台 上台 出台 失脚 登場就任 公布

就职 就业 上任 就職 就業 就任

大変お邪魔致しまして恐縮に存じます。

増長 野菜と山菜

（汉语）提出 提交 提起 （日语）提出 手渡し 提起 言及

四、敬語のあれこれ

P465 ご拝受 お受け取りのことと存じます。

P456 諒已收悉

★忽奉大札 突然お手紙を差し上げます。

适奉大札 只今お手紙を拝見いたしました。

五、こうは言わない：

×特此奉告◎谨此奉告 ×望请◎尚请 ×望多方指教◎请多方指教

×务希×务望◎务请～ ×简此奉告◎勿此奉告 ×致以慰问◎表示慰问

×不要见怪◎尚请勿怪 ×谅必◎想必×盛情厚谊◎深情厚意◎深厚的情谊

×承蒙深情厚意◎承蒙厚爱 ×来函接到了◎来函收到了

×情义（兄弟～，父子～）◎気持ち：情意（情意深厚）◎誼み：情谊

日本ビジネス中国語学会 2006年度第三回研究会

よく見かける誤訳の例から見る翻訳・通訳に際しての心構え

周 詰

翻訳・通訳は単にその国の単語を他国の単語に置き換えるというものではありません。物事に対する発想の違いと見る角度の違いにより、単語と文書の表現は当然違ってきます。(例えば、「紹介」、中国語はその逆で「介绍」。) また、前後の文書があり、だれが、いつ、どこで、誰に対する行為であるのかなど文脈で判断しなければなりません。(例えば「出来事」という単語、「事、事情、事故、変故」は辞書の訳ですが、想定外、想定内、良い出来事、悪い出来事、個人的な些細な出来事、それとも国家社会にとっての大事件。それぞれ対応すべき中国語は違います。) でも、日本と中国は漢字の国であるために、日本人の中には日本語の漢字をそのまま中国語の発音にしてしまうだけの人が多いようです(中国人の中にも中国語をそのまま日本語読みにする人がかなりいます)。(例: 中国人の友達を案内する日本人、「皇居」そのまま「那是皇居。」でも、中国人に言われ、すぐ悟りました。)

最近、気のついた誤訳から、翻訳(通訳)のあるべき姿について、みなさんと一緒に考えて行きたいと思います。

今後通訳や翻訳の作業をされる皆さまにとって、私のこの話が少しでもご参考になればと願っております。

一、誤訳の現状:

日中交流と人員の往来が益々頻繁になってきました。素晴らしい訳や商品名の訳などがある一方、それに伴い、誤訳は日本でも中国でも益々増えてきています。(出張する人たちが帰ってきて、中国で見た日本語が変)

まず軽いウォーミングアップとして、中国語の授業で使っている検定用の問題集

- 1、中国語の単語「参观」の日本語訳、「参観」そのまま(中国語検定準4級・4級の問題集)
参観の日本語の意味: その場へ行って、仕事や授業の様子を見る。

例: 授業参観

日本語の「参観」よりも広範囲に用いる。中国の「参观」は、ゲスト(お客さん)として、工場を見る、観光客として名所旧跡、記念館を見て楽しむ場合に使われます。それに日本の「授業参観」は別の言い方で表します。

つぎは、堂々とテレビに映し出された大きなミス:

- 2、福原愛さんのニュース発表会(新闻发布会) みなさんはピアノの発表会とか聞いたことがありますがお稽古してみんなの前で練習成果を披露するために、演奏したりするが、ニュースって、どうやって練習するのですか? みなさんはもうこのニュース発表会の正体がお分かりですね。「記者会見」のことです。どうして間違っているか、みなさん良く考えて欲しいです。

ニュース: 消息、新聞 発表の中国語訳は辞書では、发布になっている。

発表会: ピアノの発表会

つぎは台湾での爆笑翻訳で、中国語から英語の翻訳ですが、中国語から和訳する時、共通の問題点があると思うので、例を挙げてみました。みなさんも絶対お気に入りになると思います。

3、台湾台南のトイレ、爆笑英訳（台鐵）

烘手机・・・携帯を大切に 烘手机:Bake Call-Phone（証拠写真）

中国大陆（鉄道の規定）では、「干手器(Hand Drier)」です。

台湾の駅で、温風タオル（ジェット・タオル）が設置され、その英語訳はなんと「携帯電話を温風乾燥させる（携帯を焼く）」。

原因は「烘手机」をどういう風にどこで切るかの問題です。「烘／手机」と「烘手／机」、設置場所と用途から考えると、当然「手を温風乾燥させる機械」に解釈して、それに対応する翻訳をするべきです。

4、最近話題になった中国の「チングリッシュ（中国英語）」（日本の新聞記事）

北京オリンピックのマスコットは嘘つきで、友達なし: friendlies → 福娃(FUWA)

二、さまざまな原因による誤訳

原因1、入力、変換ミス

例1、私は老子です。 → 携帯メールで、老師が・・・
（生徒からのメールで、周先生が周老子という言葉になっている）

lǎozi

老子

1、おやじ（おとん） 2、おれさま（男性用語で、偉そうで喧嘩腰な言い方で、絶対使わないで下さい。映画、ドラマの中に出てくるが、実生活の場合、上にも下にも対して、使ってはいけない言葉です。使っちゃったら、追放されるかもしれません。）

lǎozǐ

1、紀元前5世紀頃、春秋末期の思想家、李耳。道教の祖とされる。

著書「老子」or「老子道德経」。思想は多岐に渡るが、「道」、「無為自然」万物の根本である道によって表れる。道とはすべての存在を規定する原理であると同時にそれら全てを出した母なる存在である（要調べる）

例2、コートを着ているもこもこ車両 電車ペンキを塗る前に、金属の表面を平らになるため、パテをつけます。その付けるパテは、中国語は「塗装之前要涂腻子」、つまり、「塗装する前に、ラシャを車両の表面につけてください」。

腻子（ラシャ） → 膩子（パテ）

注：料理の時の「パテ」も気をつけて 鵝肝醬（要調べる）

原因2、どこで切るか？・・・全部漢字だから

本文件：本文の件

本文件规定了・・・等要求。 ×本文の件は・・・を規定して要求する。

原因3、同形異義・・・同じ漢字だから

例1、大使館のスタッフは工作員？

朱鎔基接見了大使馆的工作人员。

工作人員(スタッフ)は工作員？ 神戸日中友好協会のクラスで、生徒たちに「人民日報」を見せました。中国の総理が海外訪問の際に、「接見了大使馆的工作人员」。生徒さんたちは早速通訳しました。「総理は大使館の工作員と会いました」。

同じく今の教え子もブログの中に、空港の案内は「外交・工作人員用カウンター」と書いている。それは教える前のことだが。そこを通る人はみんな「わたしは工作員ですよ」と堂々と自己申告のようなも

のになっちゃう。

例2、暗号で我々にわいろ?・・・連絡

请联络我们

連絡 ビジネスレターで、よく見かける文句「連絡してください」。しかしそのまま[请联络我方]or[请根我联络]になると、意味はちょっと違います。「接上关系」、つながりをつけること。そのままの訳だと、どうもさっきの工作人員とかヤミの世界を連想させられます。[请通知我方]或いは[请跟我方联系]の方がより中国語らしい翻訳です。

例3、時代錯誤の赤：赤色と赤字

用赤字标出（インターネットの翻訳）

原因4、選択ミス・・・もしかしたら、危うく（北朝鮮の爆弾が北京へ?）

例：「传达」と「转达」（NHKディリーニュース・中国語）

NHK HP：唐家璇向金正日传达了胡锦涛的口信

人民日报：唐家璇向金正日转达了胡锦涛的口信

传达(chuan da)は上級機関・組織が下の組織と大衆に政策・命令を伝える（上級の指示を伝達する）。

转达(zhuan da)は個人同士で基本的には平等の立場での伝える、話を取り次ぐ。メインは書き言葉。それに使う人は大体仕事上、特に企業や政府・国のトップ同士。友達どうし、庶民、一個人の間は使えません。

もし記者会見で、中国のスポークマンが「传达」を言ったら、きつとんでもない結果を招くことになったには違いない。

もし将軍様がこの記事をご覧になられたら、日本は安泰になりますが、かえて中国は爆弾やらミサイルやら気をつけたほうがいいですよ。「おれ様に命令するのか!何様のつもりですか!」絶対怒り爆発しますから。

原因5、中国の習慣知らない・・・慣用文句、意外な所にも専門用語、専門的な表現があります。

例1、帽子をかぶらない写真 不戴帽子?・・・(区役所からの外人登録の案内)

外国人登録書の手続きの案内が来ました。日本語で書いてありますが、ご丁寧に中国語翻訳も横についてありました。写真を持参するようにと書いてありますが、その中訳なんと「不戴帽子」と書かれていた。上半身・無帽の写真 この中国語訳はみなさん自分で搜してみてください。半身免冠相片(照片)

例2、神戸へようこそ (K市の看板) 欢迎惠临神戸 欢迎惠临神戸

K市と書いていますが、もうばれちゃいますね。台湾の言い方は知りませんが、これから見ると、台湾の中国語を略字変換しただけで、翻訳行為ではありません。給料泥棒です。税金泥棒です。知っているかぎりでは、大陸では「北京欢迎您」です。みなさん中国旅行する時、空港や町の看板を観察してみてください。

原因6、大敵・・・直訳?!

例1、人間の歯がっぱいの歯車 歯数比 牙齿数比 (某有名金属メーカー)

互いにかみ合う歯車と歯車の歯数の比。笑掉大牙(歯を落とす)

例2、コンテナの中のマッチ箱の番号 ケースNo. 盒子号码 (某大手商社)

例3、防犯カメラがお仕事中 防犯カメラ作動中 防范录像工作着 (某大手スーパー、今改装後で、その看板はもうありません)

原因7、原文がもともと間違っていた

片手のホメロス？ ONE HAND HOMMER→ ONE HAND HAMMER (片手ハンマー) 例：手錘

他の会社から依頼された工具のリストで、もともと英語だけで、ぱっと見ると「HOMMER」が「荷馬(Homeros)」にしか見えなかったです。大きな英語辞書を調べても、出てこなかった。記憶の中ではホメロスは盲目の吟遊詩人で(紀元前8世紀後半頃、ギリシア。トロイ戦争の「イリアス」「オデッセア」)、片腕じゃなかった。何より、これは工具のリストですから。問い合わせたら、「HAMMER」の誤記でした。

誤訳といっても、さまざまな原因の誤訳がありますが、誤訳がもたらす被害も当然さまざまです。あまり害のないものから、後々発見して、つじつまが合わなくなるものとか、下手をすると喧嘩になったりする場合すらあります。また大きな間違いで、製品などの標記を一から作り直さなければならぬなど、莫大なお金と時間がかかってしまう事例もあります。ここでは典型的な誤訳の原因と例を挙げました。誤訳の原因といえば、当然翻訳する側に大いに問題がありますが(単語、知識不足、無責任)、翻訳を依頼する側にも大きな責任と認識不足の問題があります。

悪いリクエスト：・そのまま訳せ！ なんにも考えずに訳せ！ ボリュームは多くはないが、難しい専門用語や辞書を調べる必要があるような単語ですらないだが、そのまんま翻訳したら、その中国語はビジネス中国語(書き言葉)としては成り立ちません。「送りました」しかし、中国語のビジネスレターとしては、情報不足です。これの対策は、「私考えないのが得意です」とささやかな反抗で返しです。

・(日本人から見る中国語の翻訳文書)通じればいい？

情けは人の為ならず：人に親切にすれば、その相手のためになるだけではなく、やがてはよい報いとなって自分にもどってくる。だから、みなさんも翻訳・通訳に対する未熟な考え方ややり方を世間にまき散らないでください。

良いリクエスト：皇后様が「普通の鳥」を飼ってらっしゃいます。

三、良い訳の例

例1、没有文化 教育を受けていない (NHK「神州夜航」)

例2、她们需要我，我需要她们。

彼らは私の指導が必要です。私も彼らの踊りの技術が必要です。(読売テレビ「千手観音」)

例3、女子十二楽坊に対する質問：リーダーがいますか？

「リーダー」の辞書訳：领导人、领袖、指挥者、指导者 みなさん辞書で調べてみてください。これらの単語、みなさんはもしその場にいたらどうする？私も見ながらどきどきはらはしました。ところで、[你们这里有没有队长?] 聞いてホットしました。

インリンさんの訳：队长 (ロンブーのテレビ番組)

四、誤訳を防ぐ心得：

1、中国語と日本語は違う！！

同じ漢字だからと、安易に考えるのではないかと思います。単に簡体字を繁体字に、或いは繁体字を簡体字に置き換えるだけでよいと思うから。「漢字」に引きずられてしまいがちです。例えば「空間」。これについて機会があったら、また詳しく説明します。とにかく、中国語の空間は日本語の空間ではない、日本語の空間も中国語では空間と言わない場合があるかもしれません。

2、訳すという行為はインターフェースが大事。

「統一」だけに夢中になって、言葉の変化、実際の意味を理解しないまま、機械的に訳したのでは誤訳を生じてしまいます。

単語の間の粘着剤とアクセサリーも大事です。

直訳、素材そのままのはだめ。素材を生かして翻訳する。例：机の上に本があります。

桌子上有一本书。日本語原文の中の「の」は必ず省略しなければならない。

「いや、忠実に訳しなくちゃ」、そういう中国語はだめ。これは中国語を少し勉強した人でも知っていることだが、さらにこの活用は理解して、実践する人は少ないです。

そのまま、とか忠実を口実に「翻訳、通訳」できてない方が多い。

大根を畑から取ってきて、そのまま食べられますか？

今日ふかひれご馳走するって、目の前に飛び跳ねているジョーズが置かれたらどうする？食べられるのはどっち？

ちなみに、北京オリンピックでは、中国の外国イメージを損ねる恐れがあるとして、選手村の食堂で「フカのヒレ」を提供することを控えるべきだという考えを示した。

3、簡単に見える単語こそ油断しないで。

単語の使い方への探求がたりません。単語一つの訳を知っていたら大満足、その単語の使い方はまったく考えない、他の言い方も探しません。各言葉のニュアンス、前後の文書との組み合わせを一緒に覚えていくべきでしょう。(パソコンで何を召し上がれ？→菜单)

(翻訳になると、学生時代の教科書のような単語一に訳語一の言葉はありません。)

4、良心的翻訳者・通訳者であること。(モラル)

発信する側と受信する側の立場に立って、翻訳と通訳の仕事を実行しなければなりません。

(原文をきちんと理解する。話のバックグラウンドを理解する。)

「見多不怪」と「不知者不怪」。(とがめるな) いつでも謙虚な気持ちで、翻訳者・通訳者自身の責任感と知識見聞の広さと深さを強化することに心がけること。

子曰：学而時習之，不亦乐乎。有朋自远方来，不亦乐乎。人不知而不愠，不亦君子乎。(《论语》)

子曰く、学んで時に、これを習う、またよろこばしからずや。朋あり遠方より来たる、また楽しからずや。人知らず愠らず(うらみず)、また君子ならずや。

学問をすると、そして実践を通して学問を身につけていくこと、これは無上の喜びだ。

次第に同志ができ、見ず知らずのその同志たちが集まってくる。こんな楽しいことはない。

人に認められようが認められまいが、そんな事は気にかけずに勉強を続ける。これが本当の君子である。

謙虚さ：榎原先生の発表会の時の出来事。ボードに書いていた漢字一字間違っていた。大先生だから、指摘しない方が・・・、他の先生がそれに気づいて、すぐ訂正しました。

子曰く：道に聴きて途に説くは、徳これ棄つるなり。

聞きかじったことを右から左へ受け売りして得意がる。これでは徳は身につかない。

书到用时方恨少，事非经过不知那难

站着说话不腰疼

上記の観点は未熟の部分が多々ありますが、是非皆様のご意見とご教示をお願いいたします。

法律文書の翻訳 —契約書や法令条文の日文中訳、中文日訳での留意点—

田中 奈緒子

【経緯】私が日中貿易促進団体に就職した1990年当時、中国の法律はまだ未整備の状態であり、制度が誕生したばかりの保税区や特区に関連する法令が公布されはじめ、団体で翻訳配布した。それが私と中国法との初の係わりだったが、当時は法令にも中国独特の社会主義用語が多用され、その概念や定義を理解することが難しかった。今のようにインターネットも普及しておらず、中国政府の情報公開も進んでいなかった。

その後、94年から数年間、中国進出案件を専門に扱う法律事務所に勤務した。主に中国進出企業のサポートをしており、翻訳業務としては中国法を翻訳して日本企業に紹介するとともに、契約書の作成業務も扱っていた。

2001年から行政書士として主に外国人(中国に限らない)の日本在住のための在留資格申請手続きを扱っている。その一方で、法律文書の翻訳の仕事も続けている。

【中国語契約書の翻訳】

今回は、契約書の内容ではなく翻訳ということに絞って話をさせていただくが、まず「契約書とは何か」。契約書とは「権利と義務をはっきりさせておくこと、トラブルが起きた場合の解決ルールを決めておくこと」だ。

この場合の契約の当事者は、主には日本人(日本企業)と中国人(中国企業)である。

法体系も文化も違う中国と日本の企業間で取引のルールを決めるのだから、双方にとって理解しやすく、できるだけ誤解が生じないように書く必要がある。

使用言語は、日文と中文で契約書を作成するのが一般的であり、英語で作成する場合もある

が、その場合も参考訳として日文版と中文版を作成することが多い。そこで「翻訳の最大の留意点は各国語版の最大限の『一致』ということになる。

一般的な取引の場合、「日文版と中文版を作成し、どちらも同等の効力を持つ」、「日文版と中文版を作成し、両者の間に違いがあるときは、日文(中文)版を基準にする」という規定をすることが多い。企業間の協議で、どちらか一方を正本としてもよく、原則的に自由に決められるが、中国で仲裁や裁判になった場合には、日文版を正文としていても中文版を基準にして審理される。そのために日文版と中文版で一致しない箇所があってはいけない。

【実際の契約書作成の流れ】

まず日本側企業が日本語で案(ドラフト)を作成し、法律事務所や社内法務部で内容に問題がないかチェックする。次に中国語訳を作成し、その案をもとに日本側と中国側企業が交渉し、変更があれば再度その部分を翻訳し、最後に日文版と中文版が一致しているか確認し、署名し有効な契約書として成立する。

日中間で交渉と変更を繰り返しているうちに数種類のバージョンのドラフトが行き来し日文と中文に思わぬ不一致が生じていることがあるので、最後に本当に一致しているかどうかを全文照合する必要がある。

日本人が日文中訳をするときは、手続として必ず最後に中国人がネイティブチェックをすべきだ。一文字の違いで大きな損失につながることもあるので、必ず踏むべき手順だ。その際は企業秘密の問題が生じるので、中立な立場で守秘義

務を守り、法務の経験がある人に依頼する。

最近では翻訳作業も法的な知識のある翻訳者にさせるのが望ましいという意識が浸透しているように思うが、まれに「翻訳は日本語と中国語がわかる人なら機械的にできるものだ」と誤解されることがあり、技術者や営業スタッフに翻訳させている企業がある。そのなかには「日本語と中国語の一致」という認識がないまま翻訳している例がみられる。

問題のある翻訳事例を目にする機会があるのは、翻訳業務外注のうち「日文版と中文版の内容が一致しているか、チェックのみ依頼する」という事例が多いからだ。

また最近感じることは、ここ数年で納期がどんどんと短くなる傾向にあることだ。

内容についての変化は、以前は中国での合弁企業設立のための「合弁意向書」「F/S」「合弁契約」「定款」等が多く、中国側が案を作成して日本側がそれを叩き台にして交渉するというスタイルが多かった。これは最近、翻訳依頼に占める割合が下がってきていると感じる。中国でも日本でも例文集が充分に出回り解説書も充実したためだろうか。また先に中国に進出した関連企業によるサポート体制もできているように感じる。

最近増えたのは、「商品取引契約」、「商標ライセンス契約」、「業務委託契約」、「雇用契約」やそれに伴う「秘密保持契約」、「賠償契約」など多種多様な種類の細かな契約で、日本側で起案して日文中訳するもので、納期も数日から1週間程度が普通になっている。

短時間で仕上げるための省力化の工夫は、大手の翻訳会社は用語の使い方もマニュアル化して翻訳スタッフの誰がやっても同じ仕上がりになるようにしているようだ。個人の場合も極力定型化して、文体として同質のものができよ

うにしている。

また、法律文書は語彙が少なくてもできると感じている。これは文法的にはいくつかのパターンでほぼ全てのことが処理できるという意味である。最近では契約書の例文集も色々出ており、大変ありがたい。例えば「前項の規定にかかわらず…」という但し書きをして原則に対する例外を規定する場合、誰が書いても同じ中国語表現をするようになれば、当事者間の誤解も減ることにつながる。何年か後に契約書の内容を変更する必要がでた場合、最初の翻訳者とは別の翻訳者が変更箇所だけを訳したとしても、他の条項と表現上の矛盾がないということにもつながることからも、契約書の表現は誰が書いても同じになることが望ましいと思う。例文集は、一つの標準訳が定着するという点で有意義だ。

また中国語とはいっても特殊な文体のものだからこそ、中国語が母国語でない日本人でも中国人と同等に仕事ができる。逆に文学的な翻訳では、原作者は如何にして人と違う表現をするかということに注力しており、翻訳も機械的、紋切り型にするというわけにはいかないため、元々のセンスと豊富な語彙が求められる。

【各論】

簡単な例を幾つか挙げて「パターン化すること」を説明する。

契約書の文章は簡単にまとめると「…できる（権利）」、「…しなければならない（義務）」の部分为核心になり、そのまわりに細かい条件や定義などが付け加えられてできている。よってまず主語をみる。権利と義務の主語は当事者の「甲」か「乙」、そのほかの「登場人物」は取引先や消費者などの「第三者」と大体この3つである。

次に「しなければならない」なのか「できる」

なのか（「してはならない」なのか）を見る。

そして「しなければならない」という文章には、「应该」の「应」、「できる」という文章には「可以」の「可」、「してはならない」には「不得」と決まった訳語を当てはめ、「**しなければならない」の「**」の部分埋める。一件の契約書中の用語を統一するだけで随分と読みやすくなる。

権利と義務の表現でも、日本語が「乙は**する義務を負う」「乙は**の権利を有する」という表現のこともあり、この場合は原文に忠実に「乙方负有**义务」、「乙方有权**」と訳す。

後から「もし甲が契約に違反したときは解約できる」、「甲が事前に同意した場合は、乙は第三者に販売できる」、「甲が同意しない場合は**できない」等の「条件」を示す部分を付け足していく。

そのほか、「**とは**のことを指す」、「支払日は何月何日」という定義や説明の条文などがある。契約書はほぼこのような当てはめできるパターンで構成されているので、分量が多くても作業時間は実はそれほどからない。

反対に中文日訳の場合にも、日本語の表現はほぼ固定したものを使う。

【推測してはいけない】

分らないことは当事者に聞け、というのが鉄則だ。例えば句読点の打ち方や語順のせいで二通りに解釈できるような箇所や、主語が不明確、社内用語が使用されていて意味が不明なときは、躊躇せず依頼者に意味を尋ねる。絶対に、勝手に意味を推測しないことが肝心だ。

【法令の翻訳】

法令条文の翻訳については、現在のところ中文日訳がほぼ 100%である。

法令集、中国ビジネスの解説書の付録として収録する訳文、データベース用、小冊子掲載用、

その他訴訟の際の根拠法を個別に翻訳する等の需要がある。

法令条文翻訳をするときも「勝手に解釈しない、意識しない」ということに注意している。日本語として不自然さが残るとしても、語順もなるべくそのままに訳すよう心がけている。

次に、中国の法体系に基づく中国の制度を、勝手に日本の制度に置き換えないということも注意している。これは弁護士や会計士からたびたび指摘される点でもある。日本の法制度に一見似たような制度があり名称も似ている場合、ついそれに当てはめたくなるが、翻訳はあくまで「原文で読めない人の参考にする」作業にとどめ、どうしても説明が必要であれば訳注をつけるにとどめるほうが良いと考えている。

簡単な例では「董事会」を「取締役会」と訳してよいかという議論がある。合弁企業法について、全く別分野の方々を対象にワンポイント解説を書く際、どうしようかという話になった。一般的な話題においては「取締役会」と訳してよいとしても、合弁企業の董事は、出資者が出資比率に応じて派遣する出資者の代理人という性格が強く、中国独自の制度であり、取締役会と訳すと不都合な場合があるからだ。このときは「董事会」と書き、括弧して（取締役会に相当する）と注記するという処理をした。中国ビジネスの世界では「董事会」はトウジカイとして定着しているため、合弁契約書等では日文版でもそのまま「董事会」と書くことが多い。

「境内」「境外」という用語も頻出する。普通は「国外」「国内」と訳したり、「国外」に括弧書きで「原文は境外」と訳注をつけたりしているが、中国語の一つの原文中に「境外」と「国外」が両方出てくる場合もあり、その場合は日本語訳でも「境外」と「国外」と使い分けるべきであり、一律に機械的には処理できない。

契約書や法令の翻訳とは、使われている用語の定義を細かく限定していくという地味な作業なのかもしれない。

このように、必要に応じて訳注をつけることは後からでもできるので、法令条文はあまり意識にならないようにするほうがよいと私は考えているが、依頼者の考えもまちまちであり、この加減はいつも迷うところだ。

それに関連して一利用者として、出版物などでは是非、日本語訳を一人歩きさせないでほしいと思う。私自身が中国ビジネスの解説書を読んでいて感じることだ。簡単な例でいうと、例えば外貨兌換の「**结汇**」という単語について、A という本では「外貨決済」と訳し、B という本では「外貨の買取」と訳してあったとすると、この2つの日本語が同じものを指しているのか迷うことがある(この単語の場合は、売る側か買う側かの立場の違いで訳も変わるため、あまり適切な例ではないかもしれないが)。そんな場合も、括弧書きで一言「**结汇**」と原文が書いてあれば疑問が一気に解決するという経験が多い。最近では右に日本語、左に中国語という対訳の法令集や、日文と中文と一緒にデジタル化したデータベースも多く、これだと簡単に原文を確かめられるため、翻訳者ごとに訳語が少々違ったとしても問題なく利用できる。

例えば所得税法に「**应纳税所得額**」という単語がある。直訳すると「納税すべき所得額」ということで私は「課税所得税」と訳しているが、「要納税所得額」と訳している人もいる。どちらであっても、原文と訳文を一組にしておけば、二人の翻訳者が「課税所得額」と「要納税所得額」という違う訳語をつけたとしても、原文を見れば同じものを指していることが分かる。少々不便だが原文と訳文が常に対照できればあまり大きな問題ではない。

どんな外国語でもどんなジャンルでも同じだが、日本語と外国語の原文と訳文が100%全く一致するということは、なかなか難しい。文学の翻訳などは100人いれば100通りの訳文ができるそうで、名訳といわれる大御所の訳でさえ、絶対に「ここは誤訳だ」という評価が出ると聞く。

法律文書の場合でも、例えば日本語の「いつでも**できる」という「いつでも」の意味を巡り日本側内部で意見の衝突が起きる等ということもあり、100%の一致ということは難しい。しかし契約の当事者、その法律の対象者ができること、できないこと、守らなければならないこと、条件とその結果を、誰が読んでも誤解なく理解できること、という点だけは最低限きっちり押さえることを心がけている。但し、契約書の誤訳については、当事者どうしが対立してはじめて翻訳の誤りが問題になるので、「間違っていました」では済まないという点は認識しておく必要があると自戒している。

以上、私の数少ない経験と知識をもとに話をさせていただきました。少しでも参考になれば幸いです。

2007年7月14日
(株) 日中語学センター

中国語通訳、プロへの道～トレーニング法と検定対策

古川 典代

自身の二十余年の通訳経験と通訳養成機関等で培った通訳トレーニングのノウハウを、効率よく活用するためにおススメのメソッドを紹介する。同時に「BCT中日通検」を主とした中国語関係の各種検定の現状を分析し、合格のために求められる資質や対処法を提案する。

1. 通訳の種類

【分野別】

通訳を種類分けすれば以下の8種類に分けることができる。

- ①会議通訳 ②通訳ガイド ③司法通訳 ④放送通訳
⑤芸能通訳 ⑥スポーツ通訳 ⑦企業通訳 ⑧医療通訳 (コミュニティー通訳)

【雇用形態】

A.有償通訳＝プロの通訳者 B.無償通訳＝ボランティア通訳

- ①専任 ②フリーランス(＝派遣) ③ボランティア

フリーで仕事をしている通訳者のほとんどが、複数のエージェン트에登録し、クライアントのオファーに応じて、会議やイベントなどの案件ごとに通訳を担当する。よって事前にその分野の専門知識を勉強し、にわか仕立ての専門家にならなくてはならない。日頃より様々な知識を吸収する好奇心と、情報をキャッチするアンテナが必要となる。また、大きな大会やイベントでは各レベルのニーズに応じて有償通訳とボランティア通訳とが混在対応となる。責任の所在などの問題が発生しやすい。

【通訳の形態】

通訳の形態は一般に以下の4種類がある。

- ①逐次通訳 ②同時通訳 ③ウィスパリング ④リレー通訳

- ①の「逐次通訳」は、スピーカー(＝話者)が話を切った時点で速やかに訳出するものである。スピーカーによっては1文ずつ律儀に区切ってくれる場合もあるが、大抵は長く喋りすぎたり、通訳が入ること自体を失念していたりする。その場合には後述のサマリーという手法で、全訳をせずに要約を発表する。
- ②の「同時通訳」は会議などで取られる形式で、ブース内からマイクを使って同時進行で通訳していく。リスナー(＝聞き手)は、イヤホンで対象言語にチャンネルを合わせて聞くが、例えば中国語話者の話を英語で聞きたい場合は、中国語⇒日本語⇒英語の作業で届くため、若干の時差が生じたり、最終的にはサマリーになっていることも多い。
- ③の「ウィスパリング」は、同時通訳の一種である。会場に対象言語者が1人もしくは少数でブースの設置ができない場合に、通訳者がリスナーの側に位置して同時に訳出していく。リスナーの質問にも答えつつという場合が多く、聖徳太子のようにいくつかの音声聞き分けなければならない。
- ④の「リレー通訳」は記者会見場に多言語のスピーカーがいる場合などに行なわれる。例えば世界選手権の入賞者インタビューで1位が中国人、2位がアメリカ人、3位が日本人といった場合には、中国語と英語の通

訳者が選手の横につき、それぞれの発言を双方向に訳出する。この場合、中国語⇒日本語⇒英語または、英語⇒日本語⇒中国語のプロセスが生じるが、言語特性からすれば中国語⇔英語ができれば、かなり時間節約が図れることになり、今後このニーズが増すことだろう。

2. 通訳トレーニング方法

①クイックレスポンス (Quick-Response) / 快速反応

<方法>単語や短文を聞いて瞬時に訳語を言う。

<目的>a)瞬発力(反応)の強化。 b)語彙力、表現力の増強。

②ラギング (Lagging) / 時差復述

<方法>単語や短文を聞いて、「一つ遅れ」や「二つ遅れ」でリピートする。慣れてきたら、「一つ遅れ」や「二つ遅れ」で「訳語」を言う。

<目的>記憶保持力の増強。

③シャドーイング (Shadowing) / 跟述

<方法>流れてくる音を追いかけて、聞いたままを重ねて口に出して再生していく。聞きながらほぼ同時にあるいは少し遅らせて聞こえたものを再生するため、耳と口とは瞬時に別々の言葉进行处理することになる。

<目的>a)発音、イントネーション、強弱、リズム、速度などの音声強化。

b)同時通訳の基礎訓練として、聞くことと話すことの分離作業の練習。

④リプロダクション (Reproduction) / 復述

<方法>中国語の文章をフレーズやセンテンスで切り、すぐさまそれを口に出して再生していく。

<目的>a)リスニング力の強化。細部にまで集中して聞く必要があるので、音声認識力が向上する。

b)文構成力の養成。構文を把握していないと正しく再生できない。

c)記憶力の向上。逐次通訳に必要な集中力と情報保持力を向上させる。

⑤ディクテーション (Dictation) / 听写

<方法>中国語を聞いて書き取る。

<目的>a)リスニング力(音声認識力)の向上。 b)漢字や文章記号を正確に書く。

⑥サイトトランスレーション(Sight-translation) / 视译

<方法>原稿を渡された端から、全体を見渡す間もなく訳出していく。

<目的>a)レセプションのスピーチ通訳、会議の発言稿など、その場でわたされる事が多く、全体を把握する間もない折にも、落ち着いて対処可能なように。

b)ウィスパリングや同時通訳の情報処理方法を学ぶ。

⑦サマリー (Summary) / 摘述・大意

<方法>まとまった文章を聞いたあと、全体を要約する。

<目的>キーワードの把握と起承転結の流れをまとめる力を養成する。通訳時に核心を外さない。しかし、場合によっては枝葉を削ぎ落とす必要もある。文章の内容認識力・理解力の向上になる。

⑧ノートテイキング (Note-taking) / 筆記

<方法>文章を聞きながらメモを取る。メモに沿って内容を再生する。

<目的>聞くことと、手で筆記する作業を分離して作動させる。効率的にメモできるよう、記号、図を駆使するなど見本を示したうえで、個々で工夫させる。

☆シャドーイングについて

近年の研究成果によりシャドーイングの効用として

- ① リスニング力が伸びる
- ② スピーキング力が上がる
- ③ リーディング力も強化される

ことが検証されている。

リスニング

音声の知覚 — (知識面=語彙・文法・表現など) —→ 理解

↑

発音・強勢・抑揚・リズム・ポーズ

(プロソディ=音韻要素→理解を助ける)

拙著『中国語シャドーイング入門』(DHC) より

このほか、リテンション (retention) やスラッシュリーディング (slash reading) という手法もよく活用されている。

3. 中国語関係資格検定試験について

A. 国家資格=「通訳案内業 (通訳ガイド)」→2006 年から「通訳案内士」に
通訳案内業法 (1949) で規定された国家資格。2006 年一部改正。

★所轄部署の変化

～2003 年までは運輸省 (国土交通省)、2004 年～国際観光振興機構 (JNTO) 管轄

★試験方法の変化

～2003 年までは1次、2次、3次試験、2004 年～1次、2次試験

★中国語合格者数の激増

2006 年中国人訪日観光全土解放 (2004 年拡大解放)

年度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
合格者数	72	85	95	49	59	70	228	182
合格率						10.2%	12.9%	8.2%

B.各種検定試験

- ①中国語検定 1981 年～
- ②HSK (汉语水平考试) 1984 年～ eg: 商务汉语考试(BCT) 2006 年～
- ③実用中国語技能検定 1990 年～
- ④ビジネス中国語検定 1991 年～
- ⑤TECC (中国語コミュニケーション能力試験) 1997 年～2006 年
- ⑥中日通検 (BCT) 2005 年～

4. 中日通検 (BCT) について

目的、レベル、難易度比較表を協会冊子より抜粋

<http://www.jipta.net/cj/index.htm>

【参考文献 アルファベット順】

浅野恵子 2004 『シャドーイング&ディクテーション』, DHC

古川典代 2004 『ソフトアプローチの中国語教育法—歌や映画・ドラマなどを素材として』, 中国語教育学会『中国語教育』第2号

古川典代 2005 『中上級学習者への通訳トレーニングメソッド応用とその展望』, 関西大学中国語文学会紀要第26号

古川典代 2005 『中国語シャドーイング入門』, DHC

門田修平、玉井健 2004 『決定版英語シャドーイング』, コスモピア

水野真木子、中村眞佐男、鍵村和子、長尾ひろみ 2002 『グローバル時代の通訳』, 三修社

水野真木子、鍵村和子 2003 『改訂三版 通訳トレーニングコース』, 大阪教育図書

柴田バネッサ清美 2001 『実戦ゼミ・ウィスパリング同時通訳』, 南雲堂

柴田バネッサ清美 2004 『はじめてのウィスパリング同時通訳』, 南雲堂

玉井健 2004 『英語シャドーイング 映画スター編』, コスモピア

玉井健 2005 『英語シャドーイング 入門編 決定版』, コスモピア

鳥飼玖美子監修、玉井健、染谷泰正、田中深雪、鶴田知佳子、西村友美 2003 『はじめてのシャドーイング』, 学研

塚本慶一 2003 『中国語通訳への道』, 大修館書店



ビデオ鑑賞と解説

藤本 恒

—温家宝総理の日本国会における講演—

国务院总理温家宝在日本国国会的演讲（全文）

中央政府门户网站 www.gov.cn

2007 年 04 月 12 日

来源：新华社



4 月 12 日，正在日本进行正式访问的中国国务院总理温家宝在日本国会众议院发表演讲。新华社记者 樊如钧 摄

新华社东京 4 月 12 日电 中国国务院总理温家宝 12 日在日本国会发表题为《为了友谊与合作》的演讲。演讲全文如下：

为了友谊与合作
——在日本国国会的演讲

中华人民共和国国务院总理 温家宝

(2007年4月12日 日本东京)

尊敬的河野洋平议长阁下，尊敬的扇千景议长阁下，各位国会议员先生：

今天，我有机会到贵国国会演讲，同众参两院议员见面，感到很高兴。我向在座各位，向广大日本国民，致以亲切问候和良好祝愿！向长期以来为中日友好做出宝贵贡献的日本各界朋友，表示衷心感谢和崇高敬意！

这是我第二次到贵国访问。上一次是在15年前，也是在樱花盛开的四月。日本人民对中国人民的友好感情给我留下了深刻印象。这次我访问贵国，是想了解日本的最新发展情况，更想为中日关系的改善和发展尽一份力，做一份贡献。如果说安倍晋三首相去年10月对中国的访问是一次破冰之旅，那么我希望我的这次访问能成为一次融冰之旅。为友谊与合作而来，是我此次访日的目的，也是今天演讲的主题。

为了友谊与合作，需要继承和发扬中日友好源远流长的历史传统。在绵延2000多年的交往中，中华民族和日本民族相互学习、相互借鉴，促进了各自的发展和进步。

自秦汉以来，种稻、植桑、养蚕、纺织、冶炼等生产技术相继从中国传到日本，汉字、儒学、佛教、典章和艺术也为日本所吸纳与借鉴。日本先后十多次派出遣唐使，阿倍仲麻吕便是其中杰出的一位。他在中国生活了几十年，并担任唐朝的重要官吏，与王维、李白等著名诗人结为好友。鉴真和尚东渡日本，五次渡海失败，以至双目失明，但仍矢志不渝。他第六次东渡成功时已66岁高龄。鉴真和尚把他认为能济世渡人的佛法传到日本，实现了多年的夙愿，前后花了12年。他为发展中日两国人民的友谊献出了自己的一切。去年12月，河野洋平议长在中国文化节开幕式上说过：日本文化传统中散发着中国文化的浓郁馨香，表明日中之间有着割舍不断的因缘。我想说，中国文化传到日本，贵国的先人在保持日本传统文化的同时，又有了许多新的创造和发展。我还想说，明治维新后，日本经济社会快速发展，中国大批志士仁人来到日本，学习近代科学技术和民主进步思想，探求振兴中华之路，促进了中国的发展和进步。中国民主革命的先行者孙中山先生开展的革命活动，曾得到许多日本友人的支持与帮助。周恩来、鲁迅、郭沫若先生等先后在日本学习和生活，同日本人民结下了深厚情谊。

中日两国友好交往，历时之久、规模之大、影响之深，在世界文明发展史上是罕见的。这是我们共同拥有的历史传统和文明财富，值得倍加珍惜，代代相传，发扬光大。

为了友谊与合作，需要总结和记取不幸岁月的历史教训。众所周知，中日两国人民长达2000多年的友好交往，曾被近代50多年的那一段惨痛、不幸的历史所阻断。日本发动的侵华战争，使中国人民遭受了深重灾难，人员伤亡惨重，财产损失巨大，给中国人民心灵造成的创伤难以用语言来形容。那场战争也给日本人民带来了巨大苦难和创痛，对此上了年纪的人们至今记忆犹新。沉思历史，使我们更加深刻地体会到：中日和平友好，关乎两个国家的命运和人民的福祉。在一个国家、一个民族的历史发展进程中，无论是正面经验或是反面教训，都是宝贵财富。从自己的历史经验和教训中学习，会来得更直接、更深刻、更有效，这是一个民族具有深厚文化底蕴和对自己光明前途充满自信的表现。

中国老一辈领导人曾多次指出：那场侵略战争的责任，应该由极少数军国主义分子承担，广大日本人民也是战争受害者，中国人民要同日本人民友好相处。在战火纷飞的年代，聂荣臻元帅在战场上救助日本孤儿美穗子，亲自精心照料，并想方设法把她送回到亲人身边。1980年，美穗子携家人专程去中国看望聂帅。这个故事感动了许多人。战后，有2808名日本孩子被遗弃在中国，成为孤儿。饱受战争创伤的中国人收留了他们，把他们从死亡线上拯救出来，并抚育成人。中日邦交正常后，中国政府为这些遗孤寻亲提供了极大的帮助。至今已有2513名日本遗孤返日定居。他们当中许多人回国后，自发成立了诸如“中国养父母谢恩会”等民间团体，并在中国捐建了养父母公墓和“感谢中国养父母碑”，其中一个碑文这样写道：“我们对中国养父母的人道精神和慈爱之心深深地感激，此恩永世不忘……”。

在这里，我还想提及一件事。中国北方的港口城市葫芦岛，曾是侵华日军运送石油的地方。就在几座残留的储油罐旁，矗立着一块石碑，记载了战争刚刚结束不久，在交通不便、物资极度匮乏的条件下，中国人民全力帮助105万日本侨民平安返回家园的历史一幕。当年从葫芦岛回国的一位日本女士，深情回顾了她的亲身感受。她说：“无论是200多个日本孩子在石头村寒冷的夜晚得到的救助，还是在遣返途中的沿路救济，无论是东宁老乡救命的干粮，还是葫芦岛酸甜美味的柑橘，都给我留下了深刻印象。善良、宽容的中国人让我们落魄的惊魂得以抚慰，也让我们最终登上了回家的轮船。”去年6月，贵国前首相村山富市先生在参加葫芦岛纪念活动时说：“大遣返真正体现了中华民族的宽宏大量和中国人民的人道主义精神。”

中国政府和人民历来坚持向前看，一贯主张以史为鉴、面向未来。强调以史为鉴，不是要延续仇恨，而是为了更好地开辟未来。中日邦交正常化以来，日本政府和日本领导人多次在历史问题上表明态度，公开承认侵略并对受害国表示深刻反省和道歉。对此，中国政府 and 人民给予积极评价。我们衷心希望，日方以实际行动体现有关表态和承诺。中日和则两利，斗则俱伤。实现两国人民世代友好，完全符合历史潮流和两国人民愿望，也是亚洲和国际社会的殷切期盼。

日本战后选择和平发展道路，成为世界上主要的经济大国和国际社会有重要影响的一员。作为贵国的友好邻邦，中国人民支持日本人民继续沿着这条和平发展道路走下去。

为了友谊与合作，需要正确把握中日关系的发展方向。今年恰逢中日邦交正常化35周年。经过中日双方的共同努力，中日关系取得了巨大发展。2006年，双边贸易额由邦交正常化时的11亿美元增加到2073亿美元，两国友好城市多达233对，人员往来超过480万人次。中日友好关系的发展，给两国人民带来了实实在在的利益。中国的改革开放和现代化建设，得到了日本政府和人民的支持与帮助，对此中国人民永远不会忘记。

在新的历史条件下，中日两国存在着日益增长的共同利益，面临着需要共同应对的重大课题。基于这样的客观事实，两国领导人就构筑战略互惠关系达成了共识。我们的目标，就是顺应潮流和民心，把中日关系推向新的历史阶段，实现和平共处、世代友好、互利合作、共同发展。为实现这一目标，需要把握以下原则：

第一，增进互信，履行承诺。中国古代先贤说：“与国人交，止于信”，“与朋友交，言而有信”。日本人也常说，“无信不立”。国与国之间的交往更应以诚信为本。《中日联合声明》等三个政治文件，从政治上、法律上和事实上总结了两国关系的过去，规划了两国关系的未来，是中日关系的基石。不管遇到什么情况，只要双方都严格遵循这三个政治文件所确定的各项原则，两国关系就能顺利向前发展。在这里我还想谈一下台湾问题，因为它事关中国国家的核心利益。我们将尽最大努力争取和平解决台湾问题，但决不容忍“台独”，坚决反对台湾当局推行“台湾法理独立”和其它任何形式的分裂活动。希望日方认识到台湾问题的高度敏感性，恪守承诺，慎重处理这一问题。

第二，顾全大局，求同存异。应该承认，中日两国在一些具体利益上和对某些问题的看法上存在分歧。但是，这些同我们的共同利益相比，毕竟处于次要地位。只要我们从战略高度、以长远眼光和对历史负责的态度，有诚意有信心，进行对话协商，双方之间存在的问题总是可以找到妥善解决的办法。对于东海问题，两国应本着搁置争议、共同开发的原则，积极推进磋商进程，在和平解决分歧上迈出实质步伐，使东海成为和平、友好、合作之海。

第三，平等互利，共同发展。中日两国经济互补性强，合作潜力大、前景广阔。经过多年努力和积累，两国经济相互依存度越来越高。中日经济合作是互利共赢的关系，两国经济的发展，对双方来说，都是机遇而不是威胁。昨天我同安倍首相会谈时，一致同意建立中日经济高层对话机制，把两国经济合作提升到更高水平。近期双方应在能源、环保、金融、高新科技、信息通讯和知识产权等领域加强合作。

第四，着眼未来，加强交流。经济合作与文化交流，是连接国家之间的两条重要纽带。如果说经济合作的目标是实现互利共赢，那么文化交流的目的是沟通心灵。两国领导人已一致同意，加强文化交流和人员往来。青少年是国家的未来和希望，也是中日友好的未来和希望。中方愿与日方一起，组织实施好两国青少年大规模交流计划，为两国人民的世代友好播下希望的种子。

第五，密切磋商，应对挑战。中日两国同为亚洲和世界的重要国家，中日关系的状况，对地区乃至全球都会产生重要影响。我们需要以这样的眼光，加强协调与合作，共同维护东北亚的和平与稳定，推进东亚区域合作进程，致力于亚洲的振兴。我们也需要以这样的眼光，共同应对全球性问题，包括能源安全、环境保护、气候变化、疾病防控以及反对恐怖主义、打击跨国犯罪、防止大规模杀伤性武器扩散等。中方理解日本拟在国际事务中发挥更大作用的愿望，愿意就包括联合国改革在内的重大国际和地区事务，同日方加强对话与沟通。

各位议员先生：

中国实行改革开放政策29年来，经济和社会发展取得了举世瞩目的成就。但是，中国人口多，底子薄，发展很不平衡，仍然是发展中国家，实现现代化还有很长的路要走。我们面临着两大任务，一是集中精力发展社会生产力，一是推进社会公平正义。要实现这两大任务，必须推进两大改革，一是以市场为取向的经济体制改革，一是以发展社会主义民主政治为目标的政治体制改革。中国在发展中存在资源、能源、环境等瓶颈制约，但经过多年努力，我们找到了一条发展的新路子，这就是树立和落实科学发展观，建设资源节约型、环境友好型社会，促进经济社会全面协调可持续发展。中国的发展主要靠自己。中国发展了，会对周边和整个世界的发展做出应有贡献。我们将坚持科学发展、和谐发展、和平发展，努力把中国建设成为富强民主文明和谐的现代化国家。中国历来有尚德不尚武、讲信修睦的优良传统。我可以负责任地告诉各位：中国高举和平、发展、合作的旗帜，坚持走和平发展道路，推动建设和谐世界的决心，永远不会改变！

各位议员先生：

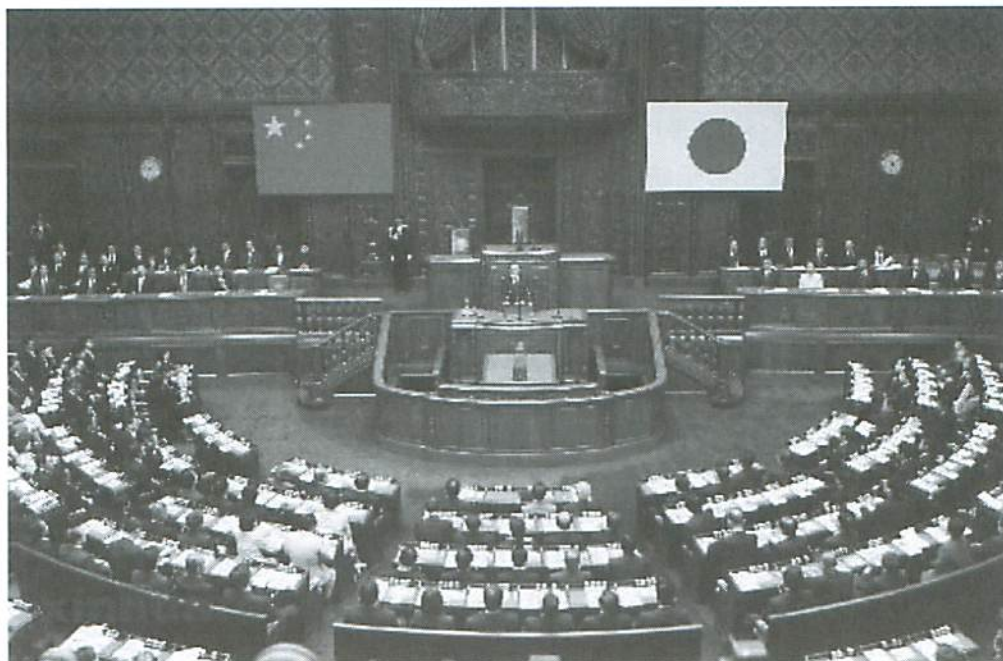
在扬州大明寺鉴真纪念堂，有一座石灯笼，是1980年日本唐招提寺森本孝顺长老亲自送来、亲自点燃的。这盏灯与日本唐招提寺的另一盏是一对。这对灯火至今仍在燃烧，长明不灭，遥相辉映，象征着中日两国人民世代友好的光明前景。贵国有句谚语：“尽管风在呼啸，山却不会移动”。中日两国关系的发展，尽管经历过风雨和曲折，但中日两国人民友好的根基，如同泰山和富士山一样不可动摇。开辟中日关系的美好未来，要靠两国政府和两国人民的不懈努力。让我们携起手来，为实现中日世代友好，为开创中日战略互惠关系的新局面，为亚洲及世界的和平与发展而共同奋斗！

谢谢大家！

友情と協力のために——日本国国会における温家宝総理の演説

(二〇〇七年四月十二日 日本東京にて)

2007/04/12



尊敬する河野洋平議長閣下

尊敬する扇千景議長閣下

国会議員の諸先生方

本日は、貴国の国会において演説をさせて頂き、衆参両院の議員の諸先生方とお会いする機会を得ましたことを大変うれしく思います。まずはご在席の先生方をはじめ、日本国民の皆さまに対し、心から祝福を申し上げ、長期にわたって中日友好のために貴重な貢献をしてこられた日本各界の友人の皆さまに対し、心から感謝を申し上げますとともに、崇高なる敬意を表します。

今回は私の貴国に対する二回目の訪問であります。前回は 15 年前、同じく桜満開の四月でした。中国人民に対する日本国民の友好的な感情が深く印象に残りました。この度の貴国訪問は、日本の最新の発展ぶりを見るためであり、さらには、中日関係の改善と発展のために力を尽くし、貢献したいためであります。昨年 10 月の安倍総理大臣の中国訪問は氷を割る旅であったと言うならば、私の今回の訪問は氷を融かす旅となるよう願っております。私は友情と協力のために貴国にきました。これが正に私のこの度の日本訪問の目的であり、本日の演説のテーマでもあります。

二千年の交流が示すもの

友情と協力のために、長い中日友好の歴史の伝統を受け継ぎ、発揚する必要があります。二千年余りにわたる往来の中で、中華民族と日本民族は学び合い、お互いの経験を参考にして、それぞれ発展し進歩してきました。

秦と漢の時代から、稲作、桑植、養蚕、紡績、製錬などの生産技術が相継いで中国から日本に伝わり、漢字、儒学、仏教、律令制度と芸術なども日本に吸収され、参考にされました。日本は十

数回にわたって遣唐使を派遣しました。阿倍仲麻呂はその中のすぐれた代表者の一人です。阿倍仲麻呂は中国で数十年間暮らし、唐王朝の要職につき、王維、李白など著名な詩人たちと親交を深めました。鑑真和上は日本へ渡航するため、五回も失敗したすえ、両眼が失明しました。それでも、和上は志を変えることはありませんでした。六回目に渡航を成し遂げたときはすでに66歳の高齢になりました。鑑真和上は衆生済度(しゅじょうさいど)の仏法を日本に伝え、長年の宿願を果たすために、通算12年間もの歳月を費やしました。鑑真和上は中日両国人民の友情を増進するために自分のすべてを捧げられました。昨年の12月、河野洋平議長は中国文化祭の開幕式において、「日本文化の伝統に中国文化の香りが漂っていることは、日中の間に切っても切れない縁があることの表れである」とおっしゃいました。わたしが申し上げたいのは、中国の文化が日本に伝わって、貴国の先人達が日本の伝統的文化を保ちつつも新たに創造を加え、大いに発展をさせました。そして、明治維新以降、日本の経済社会が急速に発展を遂げた時に、中国から大勢の青年が日本に来て、近代的な科学技術と民主的な思想を学び、中華民族を振興させる道を模索し、中国の発展と進歩を促進しました。中国民主主義革命の先駆者である孫文先生の革命活動は、多くの日本の友人から支持と支援を受けました。周恩来先生、魯迅先生、郭沫若先生等の先達も日本で留学生活を送り、日本国民と深い友情を結びました。

中日両国の友好往来は、その時間の長さ、規模の大きさと影響の深さは、世界文明発展の歴史に類を見ないものであると言えます。これはわれわれが共有している歴史の伝統と文明の財産であり、いっそう大切にし、子々孫々にわたって伝え、大いに発揚するに値するものであります。

友情と協力のために、不幸な歳月の歴史的教訓を総括し銘記する必要があります。周知のように、中日両国人民の二千年以上にわたる友好往来は、近代において50年余りの痛ましい不幸な歴史によって断たれたことがあります。当時の日本が発動した中国侵略戦争によって、中国人民は重大な災難に見舞われ、おびたしい死傷者を出し、多大な損害を被り、中国人民の心に言葉では言い表せないほどの傷と苦痛を残しました。また、あの戦争は日本国民にも莫大な苦難と痛みを与えたことは、年配の方々には今なお記憶に新しいでしょう。歴史を考えると、われわれは次のような示唆を得ることができます。中日両国の平和と友好は両国の運命と国民の幸福にかかわるものであります。一つの国家、一つの民族にとって、歴史の発展のプロセスにおいて、プラスの経験も、マイナスの教訓も、いずれも貴重な財産であります。自らの歴史の経験と教訓から学ぶほうが、より直接に、より深く、より効果的にそれを得ることができます。これは一つの民族が奥深い文化的伝統を有し、自国の明るい将来に自信に満ちている表れです。

中国の古い世代の指導者がかつて度重ねて指摘したように、あの侵略戦争の責任は、極少数の軍国主義者が負うべきであり、一般の日本国民も戦争の被害者であり、中国人民は日本国民と仲良く付き合わなければなりません。戦火が飛び散っていたなかで、聶榮臻元帥は戦場で日本人の孤児美穂子さんを救助し、自ら世話をし、そして手を尽くして彼女を家族の元に送りました。1980年、美穂子さんは家族とともに中国へ行って聶榮臻元帥を訪ねました。この話に多くの人々が心を打たれました。戦後、2808人の日本人の子供たちが中国に置き去りにされ、残留孤児となりました。戦争の苦痛を嘗め尽くした中国人が彼らを引き取って、彼らを死の危機から救い出し、育てあげました。中日国交正常化の後、中国政府は孤児たちの肉親探しに大きな支援を与えました。現在までにすでに2513人の日本人孤児が日本に戻りました。彼らの多くは帰国後に、「中

国養父母謝恩会」などのような民間団体を自発的に設立し、中国で養父母達の共同墓地と「中国養父母感謝の碑」を寄付・建立（こんりゅう）しました。その中に次のような碑文が書かれています。「中国養父母の人道的精神と慈愛心に深く感謝し、ご恩を永遠に忘れません……」と。

ここに、私はもう一つの事に触れたいと思います。中国北部の港町コロ島は、かつて中国を侵略した日本軍の石油運送地でした。昔の石油貯蔵タンクの傍らに聳え立つ石碑に、戦争が終わって間もない頃、交通が不便で物資が極度に乏しかった状況の下で、中国人民が全力を尽くして残留日本人 105 万人を無事に帰国の途につかせた歴史的な一齣が記されています。当時コロ島から帰国したある日本人女性は、感情を込めて自ら経験したことを次ぎのように振り返っています。「200 人あまりの日本人少年が石頭村の寒い夜に助けられ、また引き上げ途中でいろいろと救済されたことは勿論、東寧県の農民に救命の食べ物とコロ島で手に入れたただ一個の甘酸っぱいミカンも、私に深い印象が残り、今でも生々しくて忘れられません。これは善良、寛容な中国人が私たちの落胆した心を慰め、おかげさまでとうとう帰国の船に乗りました。」去年の 6 月、貴国の村山富市元首相はコロ島で行われた記念イベントに出席した際に、「大送還は、まさに中華民族の大きな度量と中国人民の人道主義精神の表れである。」と言われました。

歴史を鑑に未来へ向かう

中国政府と人民は従来から未来志向を堅持し、一貫して歴史を鑑として、未来に向かうことを主張しています。歴史を鑑とすることを強調するのは、恨みを抱え続けるのではなく、歴史の教訓を銘記して、よりよい未来を切り開いていくためであります。中日国交正常化以来、日本政府と日本の指導者は何回も歴史問題について態度を表明し、侵略を公に認め、そして被害国に対して深い反省とお詫びを表明しました。これを、中国政府と人民は積極的に評価しています。日本側が態度の表明と約束を実際の行動で示されることを心から希望しています。中日両国は和すれば双方に利益をもたらす、争いあえば俱に傷つきます。両国人民の子々孫々にわたる友好を実現することは、歴史の流れと両国人民の願いに完全に合致し、アジアと国際社会の切実な期待でもあります。

日本は戦後平和発展の道を選び、世界の主要な経済大国と重要な影響力を持つ国際社会の一員となりました。貴国の友好隣国として、中国人民は日本人民が引き続きこの平和発展の道を歩んでいくことを支持します。

友情と協力のために、中日関係の発展の方向を正しく把握する必要があります。今年は中日国交正常化 35 周年にあたります。中日双方の共同の努力を経て、中日関係は大きな発展を遂げてきました。2006 年、両国の貿易額は国交正常化当時の 11 億ドルから 2073 億ドルに増え、友好姉妹都市は 233 組に達し、人的往来は 480 万人を超えました。中日友好関係の発展は、両国人民に確実な利益をもたらしました。中国の改革開放と近代化建設は日本政府と国民から支持と支援を頂きました。これを中国人民はいつまでも忘れません。

戦略的互惠関係の構築へ

新しい歴史的条件下で、中日両国は日増しに増えつつある共通利益を有し、ともに対応すべき重要な課題に直面しています。このような客観的な事実に基づいて、両国の指導者は戦略的互惠関係の構築について合意しました。われわれの目標は、時代の流れと民意に従って、中日関係を新たな歴史的段階に推し進め、平和共存、世代友好、互惠協力、共同发展を実現することです。この目標を実現するために、以下の原則を把握する必要があります。

第一は、相互信頼を増進し、約束を履行することです。中国古代の先賢は、「国人と交わりては、信に止まれり」(国や人との付き合いは、信用を守ることが大事である)「朋友と交わりて、言ひて信あり」(友達との付き合いは、有言実行が大事である)と言われました。日本の方々もよく「信無くば立たず」を口にします。国と国との往来は尚更誠実と信義を本とすべきです。「中日共同声明」など三つの政治的文書は、政治、法律そして事実の面から両国関係の過去を総括し、両国関係の未来を計画したものであり、中日関係の礎であります。いかなる状況におかれようと、双方がこの三つの政治的文書に定められた諸原則を厳守しさえすれば、両国関係は順調に前進することができます。台湾問題は中国の核心的利益にかかわるものですので、少し触れたいと思います。私達は台湾問題の平和的解決をめざして最大限の努力を尽くしてまいります。しかし、「台湾独立」を絶対に容認しません。台湾当局による「台湾の法的独立」及び他のいかなる形の分裂活動にも断固として反対します。日本側には台湾問題の高度な敏感性を認識し、約束を厳守し、この問題に慎重に対処するよう希望します。

第二は、大局を念頭に置いて、小異を残し大同につくことです。中日両国の間には一部の具体的な利益と一部の問題に関する見解に意見の相違があることは認めなければなりません。しかし、双方の共通利益と比べれば、これは到底副次的なものであります。われわれは戦略的大所高所から、長期的視点に立って、そして歴史に対し責任ある態度で、誠意と自信を持って、対話と協議を行いさえすれば、双方の間に横たわる問題を適切に解決する方法を必ず見出すことができます。東海の問題については、両国は係争を棚上げし、共同開発する原則に則って、協議のプロセスを積極的に推進し、相違点の平和的解決のため実質的なステップを踏み出して、東海を平和・友好・協力の海にすべきです。

第三は、平等互惠、共同发展を目指すことです。中日両国の経済は強い相互補完関係にあり、協力の潜在力が大きく、その将来性も広々としたものです。長年の努力と積み重ねを経て、両国経済の相互依存度はますます高まりつつあります。中日両国の経済面での協力は互惠とウィンウィンの関係にあり、両国経済の発展は、双方のいずれにとっても脅威ではなくチャンスです。昨日私と安倍総理大臣は会談において、中日ハイレベル経済対話メカニズムを設立し、両国の経済面での協力をより高いレベルへ引き上げていくことで一致しました。双方は当面の間、まず、エネルギー、環境保護、金融、ハイテク、情報通信、知的財産権などの分野において協力を強化すべきです。

第四は、未来に目を向け、交流を強化することです。経済面での協力と文化交流は、国と国とを結ぶ二本の重要な絆です。経済面での協力の目標は互惠とウィンウィンの実現にあると言うならば、文化交流の目的は心と心とをつなぐことにあると言えます。両国の指導者はすでに、文化交流と人的往来を強化することで意見の一致を見ました。青少年は国家の未来と希望であり、中日友好の未来と希望でもあります。中国側は日本側とともに、両国青少年の大規模な交流プログラムを企画・実施し、両国人民の子々孫々にわたる友好のために希望の種をまきたいと思えます。

第五は、協議を密切にし、挑戦に立ち向かうことです。中日両国はいずれもアジアと世界における重要な国です。中日関係のあり方は、地域ひいては全世界に重要な影響を及ぼします。われわれはこのような視点に立って、協調と協力を強化し、ともに北東アジアの平和と安定を維持し、東アジアの地域協力のプロセスを推進して、アジアの振興に取り組む必要があります。また、同

じ視点に立って、エネルギーの安全、環境保護、気候変動、疾病の予防と抑制及びテロ対策、多国間犯罪の取り締まり、大量破壊兵器の拡散防止など地球規模の問題にともに対応していく必要があります。中国側は、日本が国際社会においてより大きな役割を果たしたい願望を理解し、国連改革を含む重要な国際問題と地域問題について、日本側と対話と意思疎通を強化する用意があります。

平和・発展・協力を堅持

議員の諸先生方、

中国は改革開放を実行して29年来、経済・社会の発展の面で世界に注目される成果をあげてきました。しかし、中国は人口が多く、基盤が弱く、発展にはアンバランスの状況が存在し、依然として発展途上国であり、近代化を実現するにはまだ長い道のりがあります。われわれは二つの任務に直面しております。一つは、社会生産力の発展に専念すること、もう一つは、社会の公平と正義を推進することです。この二つの任務を達成するには、二つの改革を推進しなければなりません。一つは、市場経済を志向する経済体制改革、もう一つは、社会主義民主政治の発展を目標とする政治体制改革です。中国の発展には資源、エネルギー、環境などのボトルネックの制約がありますが、長年の努力を経て、われわれは発展のための新しい道を見い出しました。即ち科学的発展観を確立し、実行し、資源節約型、環境にやさしい社会を建設し、経済と社会の全面的かつ調和の取れた、持続可能な発展を促進することです。中国の発展は主として自力に頼ります。中国が発展すれば、周辺と世界全体の発展にしかるべき貢献をすることができます。われわれは科学的な発展、調和のとれた発展、平和的な発展を堅持し、中国を富強、民主、文明、調和の取れた近代化国家に築き上げるために努力してまいります。中国は昔から徳を重んじ武力を重んぜず、信を講じ、睦を修めるというすぐれた伝統があります。私は責任を持って皆さまに申し上げます。中国は平和・発展・協力の旗印を高く掲げ、平和発展の道を堅持し、調和のとれた世界の構築を推進していく決意は、永遠に変わりません。

議員の諸先生方、

揚州大明寺の鑑真記念堂に一つの石灯籠があります。これは、1980年に日本の唐招提寺の森本孝順長老が自ら送り届け、自ら燃したものです。この石灯籠は日本の唐招提寺にあるもう一つの石灯籠と一組となっています。この一組の灯籠は今なお消えることなく燃え続け、はるか遠くから互いに照り映え、中日両国人民の子々孫々にわたる友好の明るい将来を象徴しています。貴国には「風は吹けども、山は動かず」という諺があります。中日両国関係の発展は、風雨や紆余曲折をたどってきましたが、中日両国人民の友好の土台は泰山と富士山のように決して動揺することはありません。中日関係の美しい未来を切り開くために、両国政府と両国人民はたゆまぬ努力をしていく必要があります。われわれは手を携えて、中日両国の子々孫々にわたる友好を実現するために、中日両国の戦略的互惠関係の新たな局面を切り開くために、アジア及び世界の平和と発展のためにともに奮闘努力していこうではありませんか。

ご清聴ありがとうございました。

サーチナ HP 連載

“得其意・忘其形”（1）

戸毛 敏美

中国の人々は五千年の歴史から生まれた言葉・文字を大切にし、そして楽しみながら暮らしている。

最近の新聞報道では、日本の子供達が漢字嫌いとのことだが、楽しみながら教えてはどうか。人は二人が寄り添って生きなければならないから人という字、食べることは「人」に「良」い、薬は「草」つまり野菜や薬草を食べて体が楽しく、人も楽になるから「薬」と言う字、「飲」むは「人」に「良」く、食事時には「欠」かせないから「飲」とか、漆は木に斜めに「傷」をつけて出てきた「水」であるとか、文字には人々の気持ちが込められていると教えていた。

私も簡体字を教える際、「帯」に帯なし、つまり中国語では“带”という字には、中の一本が少ないとか、「親」の面倒は「見」無い人が増えているので“亲”とか、「愛」日本は心を受け入れるで「愛」中国語は「友」を受け入れるで“爱”などと言って教えている。これで楽しく学べるし、また簡体字の書き間違いが少なくなったように感じる。

また中国語では四文字熟語を使って楽しんでいるように思われるので、私も楽しんでいる。例えば翻訳通訳のコツを紹介するのに活用している。もともとある熟語“得意忘形”つまり有頂天になってわが身を忘れる、身の程知らずという意味の熟語を少し変形して“得其意，忘其形”にし、通訳翻訳の一つの「コツ」として繰り返し教えている。つまり「其の意は汲み取るが、その形は忘れる」これは全ての言語翻訳に共通すると思う。

一、語順：原文の語順に拘らない。

中国語には「てにをは」がなく、語順が極めて大事である。日本語では「私は君を愛する」と「君を私は愛する」は同じ意味だが、中国語では“我爱你”「私は君を愛する」と“你爱我”は「君は私を愛する」となる。

だが今の学生は中学から英語を学び外国語への思考方法は英語がしみ込んでおり、中国語を学ぶ際には邪魔をする。例えば中国語では「主語＋動詞＋目的語」の順番だが、動詞の空間（時間・場所）は日本語の語順通り、動詞の前に来るが、つい学生は英語式に目的語の後に「在～」と言ってしまう。

“请尽快寄给我方样品,以便我方选择。”は「わが方が選択しやすいように、できるだけ早く見本をお送りください」と日本語では「～ができるように」を通常前にもってくるので、中国語の順番とは逆に翻訳すべきである。

これらが「其の意は汲み取るが」「其の形は忘れる」一例である。

二、同字異義：同じ文字の言葉には先ず？マークを！

日本民族と漢民族は世界でも珍しく同じ漢字を使う民族、というよりも日本人が漢民族から教えて貰い取り入れたとでもいうべきだろう。これは日本人が中国語を履修する上で極めて有利な条件である。僅か半年で簡単な文章は漢字を見ただけで、大体の意味がわかるようになる。欧米の人々は先ず漢字の練習にかなりの時間を費やすが、日本人は少し簡体字の書き方・要領を理解しただけでいいので、この点は欧米の人々よりずっと有利である。従って、授業では聞く・話すに重点を置いて学べばかなり効率よくマスターできる。しかし、マイナス要因としては、同じ漢字を使うのでとんでもない間違いも少なくない。

“中国经济增长很快”を「中国経済の増長が速い」と翻訳しやすいが、日本語の「増長」は「ぞうちょう」つまり「つけあがる」の意味がありこの訳は間違いだ。

“颜色变了”は顔色ではなく「カラー」つまり「色が変わった」という意味だし、関西電力の略で「関電」、「关电」は中国の人が見ると「電気を止める」になるし、交通標語の「油断一秒、怪我一生」も、中国語では「怪我」は「私の所為」であるから、中国人が「油断一秒、怪我一生」を見ると「何故油が一秒間途切れたら、その一生が私の所為になるの」という質問がでるのである。

中国語の“结束”は終了という意味、中国語の“结实”は丈夫という意味、中国語の“丈夫”は夫という意味などなど枚挙にいとまがない。

中国で合弁会社を設立され赴任したマネージャーは、中国語が分からなくても中国では漢字さえ書けば通じると信じて赴任したのである。“社长走吧！”と書いてくれたので社長が走りだすと「ノー」と言われたと。中国語の“走”は歩く、走るは“跑”である。

ある時部下が出張にでることになり「君の家庭は大丈夫？」と書いたところ、部下の中国人は首を振り「ノー！」と言ったのでびっくり。実は中国語の“大丈夫”とは益荒男つまり「強くて勇ましい男子」という意味で、「家庭では亭主関白」タイプの人を指す意味も含まれているようである。

まだ日中両国が鉄のカーテンで仕切られ、日本の情報が極めて少なく、日本政府が中国封じ込め・反中国政策を取っていた時代、この頃日本では「今中国は共産党の支配下で非人間的な生活を強いられている」という宣伝がなされていたし、中国では「中国を赤い鬼の国と外国では言われている」と宣伝されていた時代の出来事を紹介しよう。

ある中国国営企業のゼネラルマネージャー宛に、日本から訪中した社長から帰国後丁重な礼状が送られてきた。ところが受け取った方は「やっぱり」と思い、早速日本語のできる秘書を呼び出し「君、この間来た日本人は手紙でこう書いてきた。中国は邪悪な悪魔に変身して、恐れ慄き縮みあがっているそうだ」と言われた。彼女はびっくりしてその手紙を見せて貰ったところ「この度の中国訪問では大変お邪魔致しまして恐縮に存じます」とあったとのこと。まさに“得其意，忘其形”である。

ビジネス中国語キーワード（1）

榎原茂樹

私は1965年神戸市外国語大学中国学科を卒業し、当時の十大総合商社で只一社自社名で中国との取引を行っていた日綿実業（現双日）に入社、爾来、中国とのビジネスに30数年携わり、その後、日中貿易民間促進団体の日中経済貿易センターで主に会員企業の対中商内促進のお手伝いをしました。

現在では、中国語関連においては、これまでの経験を生かし主にビジネス中国語に重点を置き、大阪・神戸の両外大で「ビジネス中国語」を教え、日本における唯一の日本ビジネス中国語学会（<http://www.toho-shoten.co.jp/bujiness/index.html>）の理事長としてビジネス中国の研究と普及に関する様々な活動に取り組んでおります。また最近では中国語検定協会の評議員・理事として主にスコア式ビジネス中国語検定試験を担当しております。

今回より、このコラムの一隅に私よりビジネス中国語に絡む小話を「ビジネス中国語キーワード」として紹介させていただきます。言葉のレベルや順序は「東隣西爪」「まちまち」ですが、何れもビジネスにおいては留意すべきものと受け止めていただき、ご参考になればと思う次第です。

“研究”

日本語では文字通り「研究」であるが、ビジネスで使われる中国語の“研究”は、日本語での「研究」「調査」以外に、「考える」「検討する」という意味合いで使われることが多い。“请你研究”“ご検討ください”などと使われる。

私が駆け出しの60年代末、北京で日本の取引先の通訳をしていて「良く検討してみます」を何故か“我好好儿检讨吧”と訳してしまい、中国側がきょとんとした失敗がある。中国語の“检讨”は「欠点・失敗をよく調査して原因を追究し、自己反省する」との意味合い、所謂「自己批判する」ことで、「悪いから見直す」にも通じる。

“研究”を含む言葉で最近、良く目や耳にする言葉に“可行性研究”と言うのががあるが、これは「事業化調査」「F/S（フィージビリティスタディ）」のこと。中国語を日本語に訳す場合、同じ漢字なのに日中で意味合いが異なる場合は注意が必要で、一旦英語に置き直し考えることも有効なことかも知れない。

“负责”

“负责”とは動詞では“担负责任”即ち「責任を負う」意味である。“此事由我负责”「本件は私が責任を負う」等と使われるが、ニュアンスとしては日本語の「任に当たる」「担当する」にも通じる。中国語のレポートで“日常公司运营由他负责”「会社の日常経營業務は彼が担当している」等として出ている。日本語でいちいち「責任を負う」ではやや重たさを感じる場合がある。

“负责人”という言葉で、今から20年ほど前に以下のような経験をした。数名の訪中団で曲阜の“孔府”「孔子の居所」を訪れた際、案内された方が、建物内部に沢山の“严禁烟火”「火気厳禁」の張り紙がある前で、堂々とタバコに火を点けるではないか。私が「ここは火気厳禁ではないのか」と張り紙を指したところ、本人は何と“我是负责人！”と応じ、何等の悪びれる様子を見せず、空いた口が塞がらなかった。今ではこのようなことはないかも知れないが、当時は「私が責任を取るのだから、吸っても構わない」という理屈がまかり通る社会であったのかも知れない。その後、数年して青島に駐在したとき、日曜日に“崂山”に遊んだ際、同じく行楽に来たと思しきサイドカーに夫人と子供を乗せた制服の“民警”（警察）が交通違反したらしき者をとがめているのに出くわした。役得と公私に対する社会通念の隔たりを目の当たりにした次第。

口頭で漢字の説明をすることの難しさ

藤本 恒

今回は学校を卒業して就職したばかりの時期に起こした失敗談をご披露した。今回はその 40 年以上も後になって、慣れ親しんで来たはずの中国語でまだまだ苦勞した経験である。

1995 年企業人としての人生を無事何とか卒業し、中国語でビジネスをこなしてきた経験があるということで、請われるままに日中関係の経済団体に勤めていた 10 年ほど前の話である。

黒竜江省の省都ハルビン市から電話で「投資の誘致と日本市場視察のため訪日団を関西に派遣するのでその宿泊のためホテルの予約をしてくれないか。」と頼まれた。

団体としての本来業務である。二つ返事で引き受けた。だがホテルの予約には名前が必要なので、それを電話で問い合わせた。漢字の読み方を電話で尋ねるのだが間違いがあつては困るので、とりあえずは代表者の名前一人だけを言ってもらい、後はファックスで送って貰うことにした。ただ、一人だけの名前でも中国語で尋ねるとなると、相手の発音に訛があつてそれほど正確でない場合は、なかなか面倒でそう簡単には埒があかない。まず苗字の方だが私の耳には“周 (zhōu)”と聞こえたので“周恩来的周吗?”と問い返したら“不是。”という。そこでもう一度“哪个周?”と尋ねる。相手から“邹家华的邹(zōu)”と返事が返ってきた(“邹家华”氏は当時の國務院副總理兼国家計画委员会主任で何度も来日しており、日中経済関係者の間ではよく知られていた)。そこで次に“知道了, 下面的名字呢?(わかった、それで名前は。)”となる。“名字是 píng, 一个字。(名前は píng で一字です。)”とくる。ここでまた同じことの繰り返いだ。相手からは“三点水, 和平的平, 再加草字头。水藻的‘萍’, 浮萍的‘萍’”との説明がくる。「さんずい偏に平和の平、これにくさがんむりをつけたもの。水草の【萍】。浮き草の【萍】です。」と説明がある。順調に聞き取ればこれで一人分の姓名は間違いなく伝わるが、途中でもたつければ時間ばかりかかって互いに電話で大声を張り上げることになり、いらいらすることになる。読者の中にもこんな経験をされたことのある方が多いのではなかろうか。

今では笑い話にもならないが、若いときに中国で商談先を訪ね自己紹介をしようとしたときに名刺を切らしていた(これは私の商社マン失格であつた証拠でもあるのだが)。そこで仕方なしに口頭で説明することにした。「藤本恒」を苦勞しながら説明するのだが、「本」と「恒」はわりあい簡単に“本是日本之本, 根本之本; 恒是恒星的恒, 持之以恒的恒。”で片が付いたが、最初の【藤】は中国ではあまり使われない文字なので、一苦勞だ。

“藤萝的藤”“紫藤的藤”と言うのだが、藤の木になじみが少ないのか、なかなかわかってくれない。この文字を苗字にした有名人も急には思い浮かばない。そこで先ほどの偏や

旁を中国語で言いながらの文字の説明となる。今でも完全に説明する自信はないのだが、この時は破れかぶれで“草字头，肉月旁……（くさがんむりに肉月で……）”とやり始めたら、最初に言った樹木の名前で印象が残っていたからか、それとも日本へ留学した「魯迅」が当時の「仙台医学校」で教えられた「藤野先生」のことを知っていたからなのか“知道了，知道了，是藤野先生的【藤】吧！（わかった、わかった、藤野先生の藤だろう。）”とってくれたので、大安心。“对了，对了！！是的，是的！！”と大喜び。商談そっちのけで、「魯迅」の話に花を咲かせたという忘れがたい思い出がある。

漢字を口頭で説明された場合、日本人同士でも時には聞き間違ふ。まして、中国語で説明し、説明されとなると、中国語の語学力に劣り、中国の事情に詳しくない日本人にはなかなか困難な業ということになってしまう。

中国人が自己紹介をしたりするのを聞いていると、実にうまく漢字を説明する。簡単な例を以下に挙げて見る。

聞き違いやすい苗字を口頭で説明する

「李」→“木子李”（木と子）	「章」→“立早章”（立と早）
「李」→“十八子李”（十八と子）	「于」→“干勾于”（干に鉤）
「陳」→“耳东陈”（耳偏に東）	「林」→“双木林”（木が二本）
「吳」→“口天吴”（口に天）	「馮」→“二马冯”（二に馬）
「張」→“弓长张”（弓と長）	「楊」→“木易杨”（木に易）
「胡」→“古月胡”（古と月）	「何」→“人可何”（人と可）
「許」→“言午许”（言と午）	「姜」→“美女姜”（美女の姜）
「呂」→“双口吕”（口が二つ）	「劉」→“卯刀刘”（卯に刀）
「程」→“禾木程”（のぎへんの程）	
「王」→“三横一竖”（横棒三に縦一本）	
「徐」→“双人徐”（ぎょうにんべんの徐）	

これらは、生活の中で習慣的に言い習わされてきているので系統的に解説したものはない。一番の早道は上述のように有名人や誰でも知っている事物から類推させることである。ただ、それでもせめて代表的な漢字の偏と旁ぐらいは日本語でも中国語でも言えるようになっておきたいものだ。

日・中時事用語あれこれ随想 (2)

待場 裕子

目下中国には日本をはじめ、あまたの外国企業が進出しています。今回はそれらの企業の中国における社名、ブランド名などについて、お節介な感想を少しばかり述べさせていただきます。例えば日本の企業では、三井、住友等もともと漢字を使った社名は、中国でもそのまま漢字で通用するわけですが、カタカナ社名の場合は中国でどのように名乗っておられるか、これは熟慮に熟慮を重ねて中国の人にも理解される漢字名をつけられたことと拝察します。しかし結果として、これは少しどうかと、他人事ながら気になることを挙げてみました。

◆ 「パロマ」は「幸せ一杯」か

先日報じられた「パロマ」のガス瞬間湯沸かし器の一酸化炭素中毒事故。その「パロマ」が中国に進出しており、中国における同社名を“百楽満”と言います。発音は“Baileman”。(声調省略) これは「パロマ」の社名を、出来るだけ快適で楽しい生活をイメージする漢字を使った苦心の音訳語だったと思われます。音訳とはいえ、字面からは「百の楽しみが満ち溢れる」湯沸かし器となります。ところがあの事故発生後、中国のメディアは一斉に“日本百乐满热水器导致 20 人死亡!”(日本のパロマ湯沸かし器事故で死者 20 名!), “百乐满热水器致人死亡总裁欲辞职。”(パロマ湯沸かし器による死亡事故で社長辞意表明。)などと報道され、皮肉にも苦心の社名(中国語)と現実とがあまりにもかけ離れ、今となっては社名が白々しくさえ聞こえます。社名を考えると、こんな事故まで予想はしたくないでしょうが、まさかの時にも無難なものにしておく必要があるということでしょうか。

◆ 「全日空」は「全日から空き航空会社」か

一方もともと漢字の社名は、中国ではもちろんそのまま通用することは上述した通りです。しかし「全日本空輸株式会社」略して「全日空」さん、中国語でも略称の方が圧倒的に多く使われ、“全日空”の発音は“Quanrikong”です。もちろん今では“Quanrikong”がANAを指すことは大勢の人が認めるところです。しかし中国語としてこの社名を考えたとき、「全日、空いている」という意味にもなります。縁起でもないといわれそうですが、「全日」という単語が日中両国語に存在する以上、“全日”で一拍おいて、“空”とする意地悪な読み方も出来るのです。“全日空”は悪くすると「一日中がら空きの飛行機」、「全日空飯店」は「年中人気のないホテル」になりかねません。よほどこのような天下に名だたる大会社でない限り、この辺への気配りも必要ということでしょうか。面子を重んじる国ゆえ、面と向かっては何も言われないでしょうが、陰でくすくす笑われていても困ります。

◆ 「フォルクスワーゲン」は「大衆車」か

自動車メーカーの社名、車のブランド名の中国語訳は実に様ざまです。

A. 音訳の例

クライスラー (CHRYSLER)	克莱斯勒 (Kelaisile)
ボルボ (VOLVO)	沃尔沃 (Woerwo)
ロールス・ロイス (ROLLS ROYCE)	罗尔斯・罗伊斯 (Luoersi · Luoyisi)

B. 音訳と意味訳を結合した例

ポルシェ (PORSCHE)	保时捷 (Baoshijie) → スピード保証つき
プジョー (PEUGEOT)	标致 (Biaozhi) → 美貌
BMW	宝马 (Baoma) → 宝の馬
ベンツ (BENZ)	奔驰 (Benchi) → 疾走する
フォード (FORD)	福特 (Fute) → 超幸せ

C. 意訳のみ

ゼネラル・モーターズ (GENERAL MOTORS)	通用汽车 (Tongyong Qiche) → 通用する自動車
フォルクスワーゲン (VOLKSWAGEN)	大众 (Dazhong) → 大衆

D. 日本の社名及びブランド

トヨタ	丰田 (Fengtian)
クラウン	皇冠 (Huangguan)
日産	日产 (Richan)
マツダ	马自达 (Mazida)

枚挙に暇がありません。Aは何やら外車の高級車イメージが既に出来あがったようです。Bはなかなかの名訳ぞろいです。「ベンツ」の中国名“奔驰”はまさしく「疾走する」でかっこいいです。途中でエンストなんていうことも先ずないでしょうから、これで大丈夫でしょう。それに引き替え C は、なにやら気の毒な感じがするほどぱっとしません。ずばりの意訳だけで、味も素っ気ありません。天下の「GM」も中国では“通用汽车”、「フォルクスワーゲン」“大众”は「大衆」です。外車でも大衆車です。Dについては、中国語の簡体字を知らなければトヨタの社員さんでも、これが自社の社名と分らないかもしれません。マツダの場合は音訳ですが、多少の意味「馬自ずから到達す」も込められているのでしょうか。余計なお節介まで。

得其意・忘其形（2）

戸毛 敏美

折りしも歴史認識問題、靖国神社問題、教科書問題、そして反日デモなど日中関係がぎくしゃくする中、8月28日の新聞報道によると、鎌倉時代後期から代々伝わる和漢薬のメーカーが「三光」という自社の商標を中国で登録しようと、中国国家工商行政管理総局へ申請したところ、認可間近で却下されてしまった。商標登録事務所の職員が異議申し立てをしたが、「日中戦争を想起させる」「中華民族の感情を傷つける」と言われ、またネットを通じて商標「三光」への反対が広がっていったとのことである。

本来この二文字には「三つの光」という意味しかないのだが、日本軍が1936年七・七事件を起こし中国全土に対する侵略戦争を展開した際、河北周辺農民の強い抵抗を受けた。彼らは一般民衆であるが、地下道を掘り日本軍が村を占領すると、どこからとも無く銃弾が飛んできて、日本軍は手を焼いた。そこで見境も無く、全ての中国人を敵扱いに始めた日本軍は、村全体を根こそぎ消滅する作戦を大々的に展開し、無人地帯化させたのが中国で言われる所謂「三光作戦」である。中国語の「光」には「きれいさっぱり」「徹底的に」「根こそぎ」という意味があり、「全部きれいに食べる」は「吃光」という。

つまり、日本軍はその村の全ての人々を、赤子に至るまで容赦なく殺害し尽くし、家財は全て奪い尽くし、最後に火を放ち焼き尽くしたのである。それで生き延びた人の証言もあり、いまだに人々の記憶に生々しく残っており、語り継がれている。

しかし、日本では高校生が世界・近代の歴史教科を学んでいない状態であるから、多くの人は知らない。もしこの事実を知っており、被害者の心を良く理解できていたら、中国での商標登録においては、別の方法を考えていたであろう。漢字には一つ一つに深い意味があるのを心して使っていくべきであろう。

しかし、見事な翻訳例も少なくない。例えば、サントリーは「三得利」サンドリーと発音も近く、しかも生産者・取扱業者・そして顧客もみな利を得られるという意味が込められており、多くの中国人はこれが日本のメーカーのブランドとは知らず、美味しいビールの代表ブランドと思い込んでいる。

また「トクホン」という膏薬、貼り薬の命名が「脱苦海」発音もトクハイと近く、しかも貼るとくしみの海から抜け出せるほど効果があるという意味なので、名訳であろう。

また化粧品の「ファンデーション」を中国語では「粉底霜」と訳され、発音も近いし、またおしろい粉の下地として塗られ、肌の上に霜が降りたように肌を白くするという意味が表現されており、これも名訳であろう。

勿論最近中国では訳の分かりにくい外来語の商品名や商標名が氾濫しており、しかも若者はそれが「格好いい商品」「ハイカラな商品」としてとらえる傾向があるのではないだろうか。広告を見ていて、まるでクイズをしているような感じである。

ビジネス中国語キーワード（２）

榎原茂樹

“実盘报价”

中国は今では大豆は輸入国となったが、国交回復以前より中国の東北地方で取れる黄大豆は対中輸入の主要商品の一つであった。

文革覚めやらぬ70年代の初め、北京に一人で駐在時、10月9日の午後、糧油公司より、数千トンのファームオファー（実盘报价）を受けた。オファー期限は10日午後5時。当時は日中間の通信は電報で、普段は翌日配達の日付印電報で発信しているが、今回は緊急且つビッグチャンスでもあり少々高くついたがアーエージェント電報（ウナ電のことで中国語では加急電報）を本社に打った。

私は毎日、その日の出来事を全て夜、整理し、あくる日に備えていた。夜12時近くになり、今日の大豆オファーのことを記録していて、10日が日本では祝日であったことにハタと気が付き、顔面蒼白となった。

夜中の12時をまわった時点で日本よりの返電（回電）が届いていないということは、本社には電報が着いたものの、誰も見ぬまま、休日に入ったものと思われる。このままでは折角のオファーが流れ、大きな商機を逸することとなる。日本は既に午前一時を回っており、糧油公司にも連絡も取れない。

明日を待たざるを得ないことは重々わかっているが、それから殆ど寝るにも寝れず、おまけに緊張の余りか、おデコにタンコブが出来、それが大きくなりだした。

明くる朝、先ず糧油公司に連絡し10日祝日の失念を伝え、オファー期限の延長を懇請し、11日までの延長の確認を得た上、本社の営業責任者の自宅に緊急の国際電話を入れ、事なきを得た。おデコのタンコブはこれにて凹み出し、11日の久しぶりの大量成約をもって完全に元に戻り、本当にヤレヤレ的一幕であった。

《参考》

ファームオファー（firm offer、実盘报价）は売り手（卖方）が価格、数量、規格、納期、支払条件など契約条件を回答期限をつけて買い手（买方）に提示するもので、期限内に買い手が承諾を回答すれば契約が成立するもの。従い期限内に回答できなければ商いは自動的に不成立となる。

国際電報は当時、LT、普通、アーエージェントの3種類があり、値段は文字数が同じなら、値段が倍倍（即ちLTが10元すれば、普通は20元、アーエージェントは40元）となる。

“塞翁失馬”

1973年夏、唐山火力発電所新設プロジェクトにメーカーT社グループと組んで商談。

国交回復後初の大型火力発電プラントの引き合いとて、ライバルH社グループとの熾烈な受注合戦を展開。私はタービン部門の技術通訳として参加したが、最終的には我がグループは惜しくも敗退し、敗者の悲哀をいやというほど味わった。

成約（成交）に至ったH社グループは契約調印(签订合同)後、建設サイトの唐山に担当者を送り込み建設への準備を進めていた。そこへあの唐山大地震が襲い、現場にいたメーカーと関係商社の方が亡くなられた。

今にして思うと、あの商談に成功しておれば、行き掛り上、私は現場に派遣され、同じように遭難したに相違いなく、商談敗退は悔しい限りではあったものの、それ故に命が救われたこと、正に人間万事塞翁が馬を身にしみて体験した訳で、亡くなられた方のご冥福を祈るのみであった。

《参考》

“塞翁失馬”は四字成語で人間万事塞翁が馬、人生の吉凶、禍福の転変は予測しがたいこと。(边境に住む翁の馬が逃げ、悲しんでいると一匹の駿馬を引き連れて戻って来て翁は喜んだ。ところが息子がその駿馬に乗り、落馬して足の骨を折ってしまった。翁は悲しんだが、そこへ兵役の令状が届き息子は戦地に行かなくて済み、翁は喜んだという故事)

プラントは“成套设备”；火力発電所“火力电站”はボイラー“锅炉”で蒸気を作り、タービン“汽轮机”“透平”をまわし、発電機“发电机”で発電する仕組み。

思い出に残る中国語の“接受”という言葉

藤本 恒

日中間の言葉上の理解の差を身をもって感じた出来事が、過去の私の日中ビジネス生活の上で何回かある。自分の経験したことであるだけに今でもその時の情景を目の前に彷彿と思い浮かべることができる

まず一つ目は、1963年の夏の出来事である。もう40年以上も前の事である。年齢こそ30歳を越してはいたが、商社マンとしては、まだ新参者であった私は、自社が扱っていたレーヨン・ステープル・ファイバー（スフ綿）対中訪中商談グループ日本側11社の一員として北京商談に参加した。日本側スフ綿生産メーカーの一次問屋がこの商談に参加したのだが、私に中国語が出来ると言うことで、下位商社でもあり新参者でもあったのだが、日本側商社連合の代表通訳になった。中国側は当時の日本通と言われていた、中国紡織品進出口総公司の車光烈氏が担当した。ご承知の通り、当時この商品は友好貿易取引品目であり、日本側はそれぞれ個別の「友好商社」が扱った。そして相手は中華人民共和国の繊維貿易を一手に取り仕切る国営企業、中国紡織品進出口総公司であり、中華人民共和国対外貿易部（現在の商務部）の出先機関でもあった。商談相手の責任者は張清波処長であり、外貿部の出向者であった。相当に緊張しながら商談に望んだのだが、日本の独占資本主義者の中国に対する高値売り込み政策方針があるとか、商談を阻害する政治要因があるとかの対日批判があったりで、何回かの面談の中で気分は常に緊張を強いられていた。

通訳は、日本側発言を私が中国語に訳し、中国側の発言は中国紡織品進出口総公司の車光烈氏が日本語に訳した。恐らく、私の中国語の説明は相手方になかなか分かりつらかっただろうと想像するが、車光烈氏の日本語も相当なもので、なかなか日本人には難解であった。相手がやったように、私も小声で日本側の主発言者に補足説明をしていたら、中国側の商談責任者が、突然「日本側の友好商社の皆さんが、ここ北京まで来て、中日貿易取引の発展と中日友好の拡大の為に、努力して下さっているのだから、我々中国紡織品進出口総公司としても、感謝の気持ちを表明する必要があると考える。感謝の気持ちは具体化して態度で示すべきものであるとの毛沢東主席の教えもある。我々は、このスフ

綿の日本側オファーを受け取ることでその誠意を示そうと考える。」と重々しく発言した。一瞬、日本側は何のことか分からずきょんとしたが、そこは、抜け目のない日本側商社マンのこと、「では日本側のオファーを受けとって、ご検討願えるのですな、商談は継続ですな、次は何時アポイントを取ればよいのでしょうか。」と尋ねる。まだ、商談に慣れていなかった私は、中国側の元の発言が“为了具体表示我们的诚意，接受你们的报价”であったので、少々妙だなと思ったのだが、雰囲気は口を挟ませなかった。ところが、中国側の次の発言が「皆さんは、大層苦勞なさったのだから、二三日は北京市内・郊外の名所・旧跡を遊覧されて帰国なさったらよいでしょう。案内させますから。」であった。あっけにとられた日本側は互いに顔を見合わせる場面となったのだが、やっと私が、「中国側発言の〔オファーを受け取る〕というのは、〔受諾する・アクセプトする〕ということで、商談成立ですよ。」と説明したので、日本側は大喜びで、一斉に立ち上がり、中国側の商談責任者に握手を求めるという騒ぎになった。確かに、“接受”は受け取るには違いないが、〔受け入れる〕意味合いの言葉であり、日本語で「受け取る」と訳されたのでは、緊張した雰囲気の中では、そこまで気が回らなかったのも無理はなかったのだが、車光烈氏の日本語に一憂一喜した場面であった。

本件は現地で無事契約書にも、サインを済ませ全員意気揚々と帰国したのだが、思い出に残る2万6000トンという大口スフ綿商談のあっけない幕切れ風景であった。

日・中時事用語あれこれ随想（3）

待場裕子

いずこも同じ少子高齢化社会

戦後の第一次ベビーブームに生まれたいわゆる団塊の世代が、今年大量に定年を迎えると言われています。この世代は必死に働き、敗戦後の廃墟の日本を世界屈指の工業先進国に育て上げました。ITをはじめとする先進ハイテクによって、国民の生活も、薄型テレビ、DVD、パソコン、全自動洗濯乾燥機、マイカー、携帯……などに囲まれ、戦時に比べて夢のような変貌を遂げています。今や個人の生活の質を楽しむ時代の幕開けともいえます。しかし一方で、最近では少子高齢化、格差の拡大などが大きな問題となりつつあります。若者の間には「ニート」「フリーター」といった生活スタイルも現れました。

中国も、あと約2年で建国60周年を迎えます。中国の人々の生活も、建国前に比べ大きな変容を遂げています。そして今中国においても（主として都会においてでしょうが）、日本とよく似た社会現象が起こっているように思えます。国の成り立ちや形態が全く異なるにも拘わらずです。この類似性は一体どこからくるのでしょうか。その原因を探るのは本稿の目的ではありませんが、現象として見て、日本で新語と見なされるような言葉が、いま中国でも新語として定着しつつある現状を、私はたいへん興味深く思います。そこで幾つかの語彙を通して、それぞれの国の共通性や特異性を覗いて見たいと思います。

「高齢化社会」、中国語では、ずばり“老龄化社会”という

日本語の「高齢者」「シルバー」は中国語では“老年人”と言います。中国語はより現実的な表現といえましょう。いわゆる少子高齢化社会のよって来る淵源は、両国ではかなり事情が異なります。中国では1970年代より国を挙げて「計画出産」「计划生育」が勧められ、1980年からはいわゆる「一人っ子政策」「独生子女政策」が実施されました。その頃に生まれた一人っ子たちがいま成人し、その一人っ子どうしが結婚して子供が1人生まれると、中国では“421現象”（1人の子供に対して、両親、祖父母と外祖父母が「かまう」という現象）が生じ、“过年去谁家？ 婆家 VS 娘家？”（正月はどっちの家で過ごすか、夫の実家か、妻の実家か）で悩むことになるようです。日本でも、毎年「第一生命」が発表するサラリーマン川柳コンクールに、「初孫におとな六人総がかり」とありますから、共通の現象ともいえます。また最近中国の都会では“空巢現象”なる症候群が現れたようです。字面から「空き巣」が多くなったかと判断してはいけません。これは一人っ子が親元を離れることにより、一部の親たちが一種の喪失感、抑鬱感に襲われる症状を言います。伝統的な大家族で、賑やかに暮らすことを生きがいとしてきた者には耐えられない寂しさなのでしょう。親も子離れが必要な時代となってきたといえます。

中国にもいる「ニート」、あちらは“啃老族”と言う

もともと「ニート」は、NEET (Not in Employment, Education or Training) 直訳すると「就業、就学、職業訓練のいずれもしていない人」で、英国で名づけられたといえます。日本では、生きがい、向上心を見出せない若者が増えて、いまや社会問題となりつつあります。日本語における「ニート」は上述したように、全く外来語なのですが、このことから分かるように、「ニート」は今やグローバルな現象になっているのでしょう。

いま中国でも「ニート」が増殖しています。中国語では“啃老族”(年寄りのすねかじりする一族の意味、“啃”は「かじる」の意味。)と表現します。言い得て妙ともいえますが、親にとっては困った存在にちがいません。最近ある雑誌(「読む中国語世界 No. 395」)に、さすが中国語、1~10の数字を使ったニートを酷評する文句が出ていました。引用させていただくと、“一直无业, 二老啃光, 三餐饱食, 四肢无力, 五官端正, 六亲不认, 七分任性, 八方逍遥, 九(久)坐不动, 十分无用”。私流に訳せば「仕事に就かず、両親のすねをかじり倒す。三食充分取るくせに、ひ弱な体、そのわりにはクールなルックス。親戚づきあいはいらない我侭ぶり、あちこちに出遊ぶかと思うと、家に引きこもる、全くの役立たず。」となりましょうか。中国の「ニート」はかなり厚かましいようです。

一方台湾にもいる「ニート」、あちらでは音訳して「尼特族」と呼ばれています。因みに3月2日付け日経の夕刊に、総務省2日発表の2006年労働力調査による日本の「ニート」数は、前年比2万人減の62万とのことでした。

日本の「フリーター」と中国の“飞特族”

同じく3月2日日経夕刊同上の調査結果として、日本の15~34歳の若年フリーター数は、前年比14万人減187万人と報じられています。そもそも「フリーター」とは、広辞苑によると、「(フリー・アルバイトの略) 定職に就かず、アルバイトを続けることで生計を立てる人。」とあります。

どうやら日本発のこの「フリーター」は、中国ではその音訳語として“飞特族”として登場、ネット上でもしばしば話題に上ります。中国では“代表自由的工作方式”(フレキシブルな就業スタイルを表す)とされており、基本的な意味合いは共通していると思われます。ただ色々調べてみると、中国の“飞特族”は「飛んでる、特別な一族」という、いくらかプラスイメージも込められているようで、かなり高い技能の持ち主が、短期集中的に仕事をこなして高収入を得、あとは自由気ままに暮らしている一族のようです。そういう意味では数は少ないでしょうが、日本の「フリーター」よりややリッチな雰囲気を感じられるような気がします。

「ディンクス」中国にもある“丁克家庭”

いわゆる「ディンクス」(ダブル・インカム・ノーキッド)の家庭は、最近中国にも登場、音訳語として“丁克家庭”(双收入无子女)と言います。この夫婦たちは、日中共通して、実にリッチで優雅な生活を楽しんでいると聞きます。

得其意・忘其形（3）

戸毛 敏美

本年は遣隋使が大阪港から出航して1400年ということで、大阪府が組織する1400人の大型代表団を派遣しての交流を繰り広げる計画とのこととします。

周知のように、遣隋使・遣唐使は命がけで海を渡り、中国から文字・文化など多くのことを学びました。そこで「同文同種」という言葉も生まれましたが、ここでこのことを再度振り返ってみたいと思います。

日中両国はその後一時期徳川幕府の鎖国政策で国交は断絶しましたが、明治維新後の1871年、日本は清朝政府と日清修好条約を結びました。しかし、その後日本は所謂「日清戦争」で中国から台湾澎湖列島を取り、朝鮮半島を併呑し、そして所謂「満州事変」を引き起こし中国侵略戦争へと突き進んでしまいました。

本年はまた1937年の盧溝橋事変から70周年、日本人としてこの一年をしっかりと記念すべきでしょう。そして敗戦、中華人民共和国誕生、それから23年間日中関係者が多くの努力をした結果、やっと1972年9月に国交が回復ではなく正常化し、本年は日中国交正常化35周年という記念すべき年を迎えました。

さて、日本はいよいよ大学全入時代に突入しましたが、以上に述べた日本人として絶対忘れてはいけない歴史の事実をこれら学生・若者に学校は全然と言っていいほど教えてこなかったのです。ゆとり教育の皺寄せが今全部大学にきている感じです。言葉の背景を深く紹介するのは私たちの責務でしょう。

幸い日中両国は以上の数千年にわたる交流により、同じような漢字を使用しています。私は中国語授業でこれを上手く使いプラス面を生かした漢語習得法を絶えず考えながら教えております。

最初の授業では、「你好」と板書し「君が好き」ではなく「こんにちは!」「好」は「良い」という意味ですよ。では好きは「喜歡」と書きますよ!喜ぶは「高興」つまり「興が高じる」と表現するのよと説明すると学生は皆興味を示します。そして次に「勉強」と板書し質問しますと大抵「あれ?学習という意味ではないの?」と質問されます。漢語では勉強という二文字には「無理強い」「強制」という意味があるので、そこで私は今後の授業は「勉強します」でも大阪弁の「勉強しまっせ!」つまりオマケ・値引きなどしません。漢語の意味の「勉強」つまり無理強いしますよと先ず宣言します。授業では全文を暗誦してその文に関連する質問をして漢語で答える練習をします。皆は「また先生の“勉強”が始まった」と言っています。

また上級クラスでは「学習の心得、翻訳の心得」と板書し「心得」は日本語では留意すべき事項を指しますが、漢語の「心得」二文字は「心で体得したもの」という意味で日本語の「心得」という意味がありませんと説明します。

明治維新後、中国から現在以上に多くの中国人留学生が来日し、近代化の経験教訓を学びに来られ、多くの新しい漢字の使い方が日本から中国に入りました。自由・民主主義・経済などの用語も日本から導入されたそうです。「中華人民共和国」でも本来の中国語は「中華」の二文字のみで、「人民」とか「共和国」という概念と用語は日本から中国へ輸出されたものです。中国が改革開放されて後多くの中国留学生が日本に来られ新華僑が五・六十万とも言われております。これらの優秀な知識分子が来日して日本語を学び、多くの新しい知識を持ち帰っており、例えば従来すべて国営または地方国営であった勤務先を「単位」と言っていたのが、改革開放に伴い多くの私企業や外資系企業の誕生により、自分の職場のことを中国でも「職場」と表現するようになりました。

日本では多くの女性が社会進出し、それに伴い「かぎっ子」問題解決のため小学校での「留守家庭」対策として学童保育が行われましたが、最近中国でも多くの農村で子供達の学資捻出のため大量の農民が夫婦で都会に出て働くようになり、田舎に残された子供達を預かる場所ができ「留守家庭」という言葉も使われるようになりました。しかし日本と異なるのは日本では毎日両親と会えるのに、中国の留守家庭児童は年に一度春節にしか会えないのです。同じ文字で表現しますが少しずつ意味が異なります。

「国交回復」という表現も、中国で「回復」と書くと「返事を出す」という意味になります。では回復はというと回復の「回」は「恢」と書かなければなりません。

親友（中国では「親は見ない」つまり中国では親と書き「見」という字が無いので教える時はこう言います）も日本語の親友という意味ではありません。つまり「親」とは身内の人、親兄弟親戚を指すのです。したがって親友と書けば「身内の人と友人」という意味で表現されているのです。では親友はどう表現するのでしょうか。親友は「親密な友人」という意味ですので「親密的朋友」「亲朋好友」などと表現しなければなりません。

親切も日本語の意味と異なり、中国語でこの二文字は「親しみが籠っている」状況を表現し「親しみ」という意味で用います。「人に親切」を表現するには「待人熱情」と表現しなければなりません。この「熱情」は心を込めるという意味でよく用いられます。

本当にあげればきりが無いほど似て非なる点が沢山あります。関西外大のホームページで高校生対象にこのような中国語の面白さを紹介するコーナーがあります。若い方、これから中国語を勉強しようかなと思われる方にお勧めです。是非見てください。

ービジネス中国語の学習ポイント（1）ー

榎原 茂樹

発音と表現

私は1965年に神戸市外国語大学中国学科を卒業し、総合商社ニチメン（現双日）に入社、爾来一貫して中国とのビジネスに従事しました。中国滞在年数は累計14年、訪中回数は100回になります。私の中国とのビジネス30余年の経験から、対中ビジネスに役立つビジネス中国語をどのように学習し習得すべきかにつき、今後数回に分けて述べてみます。中国語を駆使して対中ビジネスに乗り出す方や既に活躍されている方々への参考となれば幸いです。

1. 正しい発音—日中発音の違いを体得すること

日本人が中国語を駆使してビジネスを行なう際、まずは正しい中国語の発音が出来ているかが重要なことと思います。日本語の発音と異なる中国語の発音が頭ではなく口から自然に出てくることが出来ているかと云うことです。日本人はともすれば外国語を学ぶとき、その発音のベースを日本語の発音に置き換えて発声しがちです。私たちが生徒・学生時代に習った英会話が多くの場合未だにジャパニーズイングリッシュに留まっているのも何処かで学び方を間違えていたように思えてなりません。

中国語の発音で日本語の発音と一部ですが大きく異なる点を捉えることです。具体的には、“有気、无気”、“母音”、“宽音、窄音”、“卷舌音”、“四声”、“轻声”等に見られます。一通り中国語をマスターしたと思っていても、どこかネイティブの“普通话”の発音と異なっている点に注目する必要があります。この違いが判り、その違いを失くし正しい中国語の発音を自分のものにすることがビジネス中国語学習の最大且つ最も重要なポイントといえましょう。

私自身そしてこれまで数多くの日本人のしゃべる中国語に接してきた経験から、日本人として発音で陥りがちな代表的な盲点をここに一例として挙げ、学習の要点として紹介したいと思います。

- ・ 中国語の“有気、无気”と日本語の「濁音と清音」の違いを悟り正しく発音する：
ポイント：b、p；j、q；g、k；h等の正しい中国語発音をマスターすること
- ・ 日本語にない中国語母音の正しい発音をものにする：
ポイント：e、eng；yu；an、ang；
- ・ 四声と力点、轻声：
ポイント：三声から二声に続く抑揚（“取得”，“改为”）を正しく；
“再见”，“困难”など力点と轻声の表現；
- ・ 卷舌音：正しく発音出来るに越したことはありませんが、中国人でも南方では難しい発音であることから、先ずは上記3点を中心に見直し正すことに重点おけ

ば良いと思います。

2. 表現力を身につける—より中国語的な表現を

言葉・文章の「表現力」については、正しい発音の習得と共に、ある程度中国語の力がついた段階から求められる重要課題であります。日本語でもそうですが、味のある表現や気の利いた言葉や文章が、意思疎通をスムーズにするものです。特にビジネスにおいては的確さに加え極めて重要なファクターとなります。

学習の方法は色々ありますが、私の場合は、外大の3年生の頃より日本人でありながら中国人が習いに来るという偉大な巷の大先生に師事しました。日本名：和中昌之先生、中国名：高建夫先生で、残念ながら数年前他界されましたが、師の教えは私のその後の対中ビジネス活動の中でどれだけ役に立ったか計り知れません。師の他界後、幸い高弟等により、最近そのエッセンスが出版されました。題して中国語学習シリーズ1「浅近聊天」及びシリーズ2「東隣西爪」(CD付)です。何れも簡単な会話のフレーズですが、これを声に出して何度もやれば、自然と身に付くから不思議です。

特に中国語学習シリーズ2「東隣西爪」はCD付きですので、お勧めです。大きな書店には下の段に並んではいると思いますが、御入用なら私に (ebara@mail.infomart.or.jp) に連絡ください。この参考書はきっと貴方のビジネス展開に強い味方となるでしょう。



中国語の“貿易”と輸出入（⇒“进出口”）は？

藤本 恒

鄧小平さんによる改革開放の号令が発出され、商社の北京駐在員事務所の設立も正式に認可され、ここを拠点に外国人が公安局発行の「旅行許可証」を持たずとも、地方都市へ出かけ自由に旅行や取引先を訪問できる中国国内の都市数が順次増やされ始めた1980年の事であった。

当時私は自社の中国室長と北京事務所長とを兼務しており、毎月一度は北京に一週間程度は滞在して、業務の監督を行っていた。この時の部下の報告なのだが、彼は直近に開放された地方都市を早速訪問した。商社の事であるので、直接の取引がなくても、何かの商材はないかと、何時もの通り、荷物の中には忘れずに売り込み用の商品サンプルと関係カタログ、価格計算用の算盤だけはちゃんと入れて持参したそうである。

地方空港に降り立った彼は、そこから市中のホテルへと車を走らせたのだが、途中まできた時、田舎道のそばに立っていた、「××××貿易公司」なる看板を見つけた。「こんな中小都市の町外れにまで貿易会社が出来たのか、中国の対外開放もここまで浸透したか。とりあえず顔つなぎしておくのも悪くはないな。」と考えて、自動車を止め、その「××××貿易公司」を訪問したのだが、中の中国側職員は大慌てで、英語のわかる人間は居ないし、こちらの中国語もあまり上等とはいえない上に、相手の言葉は地方訛りがきつくてわからない。結局要領を得ないまま退散した。ただ後で、当地の事情を説明して貰うために事前に訪問を予定してアポイントをとっていたこの都市の「対外貿易局」で話のついでにそのことを尋ねたところ、「ああそれは、国内貿易公司ですよ。」と軽くいなされてしまったとのこと。

彼は私への報告後、まだ解せぬ面もちで「どういうことなのでしょう。」と尋ねる。この話を半分まで聞いていて、ああ、これは日本語の「貿易」と中国語の“貿易”の違いを理解していないなと気付いたが、話は終わりまで聞くことにした。

読者の皆さんは、既にお気づきだと思うのだが、日本語の漢字と中国語の漢字の意味には殆ど同義であって、中心部分の意味は変わらないが、延長部分や、周辺部分までゆくと必ずしも同義ではないものが相当ある。漢字が中国からの輸入品であるのだからそれは当然のことでもあるのだが、「中国語の発音は難しいが、漢字を使うのだから西欧言語の様にスペルを覚える必要もない、意味は全く問題はない。」と早合点することの恐ろしさをここでもう一度強調しておきたい。それは私の人生を狂わせた原因の一つでもあり、未だに中国語の難しさの大きな

部分であるとして悩んでいるのもこの点であるのだから。

中国語の「汽車」は日本語の自動車の意味だし、日本語の「汽車」は中国語では「火車」という、などは単語が異なるだけにわかりやすい。

同質だと思い込んでいたものが、実は異質であったと分かったときに、その裏切られたような感情に襲われる気分は、実にいやなものである。

閑話休題、我々の言う貿易は中国語の「対外貿易」であり、これと対応する国内取引を中国語では「対内貿易」または「国内貿易」と言うことは、とくにご承知のことだと思う。ここでいう「貿易」は、日本語で言う「取引・商売」のことであり、日本語の似通った言葉には「交易」がある。

確かに、日本語でも貿易会社はTrading companyであり、そこではDomestic Tradeも、Foreign Tradeも行われている。しかし、いつの間にか、日本語では貿易といえば「海外取引」のみを指して「国内商売」は「貿易」の範疇には含めなくなってしまうている。

「貿」は「交換」の意味であり、「易」も同様に「換える」ことで、財貨の交換に国内外の区別はないのである。これを無視していると、つぎに述べる嘘のような本当の話になる。

設立したばかりの日系独資企業が現地で貿易のできる人材を募集しようとして、当地の有力者からの推薦で採用した「貿易人材」は、貿易のボの字も知らない一般商店員だったという話。

「中国側が自社で貿易はできると約束していたのに、いざ輸出入をしようすると、輸出入権限がないので、進出口会社に口銭を払って委託しなければならないと言う。採算が狂ってしまった。」など、自分の理解不足を棚に上げて相手に責任転嫁することになりかねない。

日本ビジネス中国語学会

設立趣意書

明治以来終戦時に至るまでの間、わが国の外国語教育は、先進文化を吸収するための文化語学と、近隣諸国との軍事・通商に備えるための実用語学にはっきりと分れていました。従って文化語学はアカデミックな研究であり、実用語学は技術的訓練にしかならないと見られてきました。そういう潮流の中で、中国語学界のエリートたちは、中国語学を文化語学としてアカデミックな研究の対象にしようと、第2次大戦末期に力説されるようになりました。

第2次大戦後は、曲がりなりにも中国語学はアカデミズムの片隅にその位置を見つけ、大学の教員もアカデミックな研究によって自分の業績を作るようになりました。しかし、一方で実用語学としての中国語学は軽視されるに到りました。外国語大学や社会科学系学部でも、商業経済や新聞雑誌に関する中国語研究は次第におろそかになり、そのため、この方面の研究に従事する人々は、共同に研究する基盤もなく業績を発表する媒体もないという有様であります。

言うまでもなく、日本のおかれている国際的地位は明治・大正と大いに異り、外国文化に関する見方も先進・落後という単純な区別はなくなり、わが国と中国との関係もまた文化から経済まで広くかつ深いものになっています。中国語の言語理論的研究はもちろんより一層発展させる必要があります。同時に中国語の実用的研究はそれ以上必要であると思われます。

近畿在住の数人の研究者が時折顔を会わせて論議しているうちに、全国各地に散在しているそしてまた学界のみならず経済界で活躍しているこの方面の研究者を結集して、中国語の実用的研究——例えばビジネス中国語・通訳翻訳の研究等々を組織的、体系的に推進するために、ここに日本ビジネス中国語学会をつくろう、という議が持ちあがりました。

趣旨に賛同下さる方々のご参加を心から期待しています。

日本ビジネス中国語学会会則

第1条（名称）

本会は日本ビジネス中国語学会と称する。

第2条（事務所）

本会は事務所を大阪市内に置く。

第3条（目的）

本会はビジネス中国語に関する研究及び関係諸団体との交流を通じて、我が国における中国語学習者の語学能力の向上を計り、もって日本と中国の友好交流の発展に寄与する事を目的とする。

第4条（事業）

本会は前条の目的達成のために、次の事業を行う。

会長は必要に応じて事業推進グループを設置することができる。

- ①ビジネス中国語、翻訳・通訳に関する研究。
- ②日中間の相互理解を深める為の教育・研修事業。
- ③セミナー、講演会の開催。
- ④機関誌の発行
- ⑤ビジネス中国語検定
- ⑥その他前各号に関連する事業。

第5条（会員）

本会の会員は次の通りとする。

- ①個人会員 本会の目的に賛同して入会した個人。
- ②法人会員 本会の目的に賛同して入会した法人。

第6条（入会）

本会の会員になろうとする者は、別に定める入会申込書を提出し、承認を得なければならない。

第7条（退会）

- ①本会を退会しようとするときは、理由を付した退会届けを提出しなければならない。
- ②会員は次の各号の一に該当するときは、退会したものとみなす。
 1. 会費を2年以上納入しないとき。
 2. 死亡したとき。
 3. 会員たる法人が解散したとき。

第8条（除名）

会員が本会の名誉を傷つけ、またはこの会則に反する行為があったときは、総会の議決によりこれを除名することができる。

第9条（役員）

①本会に次の役員を置く。

会長	1名
理事長	1名
理事	10名以上15名以内
会計監事	1名

②理事及び会計監事は、会員の中から総会において選任する。

③会長及び理事長は、理事の互選とする。

④法人会員の代表者は役員の被選任資格を有する。

第10条（役員の職務）

①会長は、本会を代表し、会務を統括する。

②理事長は、会長を補佐し、会務を処理する。会長に事故あるときは、その職務を代行する。

③理事は、理事会を組織し、会務を執行する。

④会計監事は、経理を監査する。

第11条（役員の任期）

①役員の任期は、2年とする。但し再任を妨げない。

②補欠により就任した役員の任期は、前任者の任期の残存期間とする。

第12条（役員の報酬）

①役員は原則として無給とする。但し、常勤の役員は、有給とすることができる。

②常勤の役員の報酬は理事会の議決により定める。

第13条（顧問）

①本会に顧問相談役等若干名を置くことができる。

②顧問相談役は理事会の議決を得て会長がこれを委嘱する。

第14条（総会）

①総会は定期総会及び臨時総会とする。

②総会は会員をもって構成し、この会則に規定するもののほか、次の事項を議決する。

1. 事業計画及び収支予算。
2. 事業報告及び収支決算。
3. その他運営に関する重要事項。

第15条（総会の召集）

- ①総会は会長が招集する。
- ②総会を招集するには、会議の議題並びに日時、場所を開催日の10日前迄に通知しなければならない。

第16条（総会の開催）

- ①定時総会は、毎年1回会計年度終了後3ヶ月以内に開催する。
- ②臨時総会は、理事会が必要と認めたとき、または会員の5分の1以上の請求があったときに開催する。
- ③総会の議長は、会長がこれに当たる。

第17条（総会の議事）

- ①会員はそれぞれ一個の議決権を有する。
- ②会員は他の会員に代理出席を委任する事ができる。
- ③総会の決議は、出席会員の過半数をもって行う。

第18条（理事会）

理事会は、理事を以て構成し、この会則に定めるもののほか、次の事項を処理する。

- ①総会における議決事項の執行
- ②総会に付議すべき事項
- ③資産の管理

第19条（理事会の招集）

- ①理事会は、年1回以上招集し、会長が招集する。
- ②議長は会長がこれに当たる。

第20条（理事会の議決）

- ①理事会の議決は出席理事の過半数をもって行う。
- ②理事は他の理事に代理出席を委任することができる。

第21条（資金）

本会は下記の資金により運営する。

1. 会費並びに寄付金
2. 事業収入及びその他の収入

第22条（会計年度）

本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

第23条（事務局）

- ①本会の事務を処理するために、事務局を置く。
- ②事務局は、理事長が統括する。
- ③事務局に常勤する職員は有給とすることができる。

第24条（会則の変更）

会則の変更は会員の3分の2以上の承認を要するものとする。

- 付則
1. 本会は1990年12月8日から発足する。
 2. 本会の最初の役員は設立発起人がこれにあたる。
 3. 2002年6月29日、一部改訂

役員名簿

（2007年度の総会まで）

会 長	藤 本	恒	京都文教大学
理 事 長	榎 原	茂 樹	大阪外国語大学
			神戸市外国語大学
会計監事	待 場	裕 子	前流通科学大学
理 事	伊 井	健 一 郎	姫路獨協大学
理 事	橋 本	南 都 子	前獨協大学
理 事	古 川	裕	大阪外国語大学
理 事	戸 毛	敏 美	関西外国語大学
理 事	上 林	紀 子	京都外国語大学
理 事	神 崎	多 實 子	NHK BS・通訳
理 事	塚 本	慶 一	杏林大学
理 事	東 浦	正 重	翻訳通訳業
理 事	富 永	健 史	日中翻訳サービス代表
理 事	武 吉	次 朗	前摂南大学

事 務 局

（株）日中語学センター

会報 第 17 号

2007.8.31 発行

日本ビジネス中国語学会

〒530-0041 大阪市北区天神橋 2 丁目北 2 番 26 号 マルサンビル 4F

(株) 日中語学センター気付

電話 06-6353-2442 FAX 06-6353-0664